

# 日本地質学会 *News*

Vol.28 No.12 December 2025



## 2026年度代議員選挙について

投票および意向調査の期限：2026年1月8日（木）17時



# 一般社団法人日本地質学会

## The Geological Society of Japan

### 理 事

任期：2024年6月8日から2026年総会

会長（代表理事） 山路 敦（京都大学）

副会長 杉田律子（科学警察研究所）  
星 博幸（愛知教育大学）

常務理事 亀高正男（大日本ダイヤモンドコンサルタント（株））  
副常務理事 内野隆之（産業技術総合研究所）  
執行理事 岩井雅夫（高知大学）

内尾優子（東京国立博物館）  
大坪 誠（産業技術総合研究所）  
尾上哲治（九州大学）  
加藤猛士（川崎地質（株））  
小宮 剛（東京大学）  
坂口有人（山口大学）  
高嶋礼詩（東北大学）  
辻森 樹（東北大学）  
細矢卓志（中央開発（株））  
松田達生（工学気象研究所）  
山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）  
矢部 淳（国立科学博物館）

理 事 青矢睦月（徳島大学）  
天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）  
磯崎行雄（東京大学）  
大友幸子（山形大学）  
岡田 誠（茨城大学）

笠間友博（箱根町役場）  
加藤 潔（駒澤大学）  
香取拓馬（フォッサマグナミュージアム）  
金丸龍夫（日本大学）  
神谷奈々（京都大学）  
川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）  
清川昌一（九州大学）  
桑野太輔（京都大学）  
小松原純子（産業技術総合研究所）  
齋藤 眞（産業技術総合研究所）  
佐々木和彦（佐々木技術士事務所）  
澤 燦道（東北大学）  
沢田 健（北海道大学）  
沢田 輝（富山大学）  
下岡和也（関西学院大学）  
菅沼悠介（国立極地研究所）  
高野 修（石油資源開発（株））  
田村嘉之（千葉県環境財団）  
中澤 努（産業技術総合研究所）  
西 弘嗣（福井県立大学）  
野田 篤（産業技術総合研究所）  
広瀬 亘（北海道立総合研究機構）  
松田博貴（熊本大学）  
道林克禎（名古屋大学）  
矢島道子（東京都立大学）  
山本啓司（鹿児島大学）  
和田穰隆（奈良教育大学）

### 監 事

任期：2024年6月8日から2028年総会

岩部良子（応用地質（株））  
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

# 日本地質学会 *News*

Vol.28 No.12 December 2025

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

## Contents

日本地質学会名誉会員候補者の募集が開始されています……1

### 一般社団法人日本地質学会 2026年度代議員選挙について……2

### 2026年度一般社団法人日本地質学会 研究奨励金募集……5

募集要項/一般社団法人日本地質学会研究奨励金規則

各賞・研究助成……7

2026年度「深田研究助成」

CALENDAR……7

紹介……8

地質学者のように考える タイムフルネス, 新たな時間認識 マーシヤ・ビョーネルード著, 江口あとか訳 (木村 学)

学協会報告……9

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2025年総会及び第22回 Gondwana からアジア国際シンポジウム参加報告 (吉田 勝・鈴木敬介)

博物館・ジオパークで地球を学ぼう (47) ……11

宮崎県総合博物館: みやざきのジオストーリーを語る博物館 (赤崎 広志・福島佑一)

委員会だより……13

地質技術者委員会: 開催報告「2025年度学生のための地質系業界説明会」～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

支部コーナー……17

関東支部: 講演会「日本地質学会選定 県の石ー栃木県の岩石・鉱物・化石ー」開催報告/サイエンスカフェ開催案内

地質学雑誌: 新しい論文が公開されています/謝辞……18

2026年度の会費払い込みについて……19

学会記事……20

2025年度第1回理事会議事録

2025年度第3回執行理事会議事録/2025年度第4回執行理事会議事録

印刷・製本: 日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

巻末 入会申込書

表紙: 第16回惑星地球フォトコンテスト入選

### 雪化粧したフォッサマグナ

写真: 名知典之 (愛知県)

撮影場所: 長野県上空

地質解説等は, 下記学会 HP をご参照ください.

<https://geosociety.jp/faq/content1201.html>

### 学会事務局年末年始休業のお知らせ

2025年12月27日 (土) ~ 2026年1月4日 (日)

学会事務局は上記の通り, 休業となります. 新年5日より営業いたします. 本年も大変お世話になり, ありがとうございました. 来年も引き続きよろしくお願い申し上げます.

# 一般社団法人日本地質学会 2026 年度代議員選挙について

投票および意向調査の期限：2026 年 1 月 8 日（木）17 時

標記選挙については11月19日に立候補が締め切られ、選挙管理委員会で確認した全国区および地方支部区の代議員立候補者の名簿は、別紙のとおりです。

今回は、全国区は定数超過につき投票を実施しますが、各地方支部区は定数を超える立候補者はありませんでした。また、この選挙と同時に、代議員全国区立候補者のうち、会長・副会長への立候補意思表明者に対する会員の意向調査を実施いたします。法人の代表理事の選出は法律により、理事会において理事の中から選出することが定められています。学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり、会員の意向を伺うために、立候補意思表明者から提出されたマニフェストを公表し、投票による意向調査を行います。

代議員の投票ならびに会長・副会長への立候補意思表明者に対する意向調査の方法については、それぞれの実施要領をご覧ください。**全国区代議員の選挙投票と意向調査期間は12月11日（木）10時～2026年1月8日（木）17時までとし、選挙システムを用いWEB投票にて実施します。**結果は学会ホームページ、geo-flash、ニュース誌に掲載いたします。

選挙細則にもとづき、12月11日（木）～12月29日（月）の間を選挙活動期間といたします。公正さを保つためにも、下記の選挙細則第9条第1項を順守した活動をするようにしてください。なお、意向調査についても上記選挙活動期間内に活動を行うようお願いいたします。

## ＜選挙細則＞

第9条 選挙管理委員を除く代議員立候補者および正会員は、定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる。選挙活動は、公正かつ適切な範囲で行い、倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない。

1. 買収・饗応・利害誘導などはしないこと。
2. 誹謗中傷はしないこと。
3. 学会各組織の公式メーリングリストを使用することや、同一文書のメールを多数の人に送り、投票を呼びかけることはしないこと。

2025年11月25日  
一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会

## ＜実施要領：全国区代議員選挙投票＞

1. 全国区代議員の選挙投票は、選挙システムを用いWEB投票で行います。地方支部区の投票はありません。
2. 会長・副会長立候補意思表明者への意向調査とは別画面で実施します。会員管理システムの『2026年度選挙』から選挙システムに移動し、『2026年度代議員選挙（全国区）』をクリックしてください。『投票』ボタンから投票画面に入ることができます。
3. 全国区代議員立候補者氏名の左側に投票欄（チェックボックス）があります。チェックを付けることで投票となります。
4. 投票は連記制で、投票数は全国区代議員の定数（99名）まで

です。連記数が定数を超え投票しようとするエラーメッセージが表示されます。

5. 候補者氏名をよくご確認のうえ投票してください。

## ＜実施要領：会長・副会長立候補意思表明者への意向調査＞

\*法人の代表理事は法律により、理事会において選任することが定められています。実際の選出は、理事として選出されてからのことですが、学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり、会員の皆様の意向を伺うためにこの調査を行います。

1. 意向調査は、選挙システムを用いWEB投票で行います。
2. 全国区代議員選挙とは別画面で実施します。会員管理システムの『2026年度選挙』から選挙システムに移動し、『正副会長立候補者への意向調査』をクリックしてください。『投票』ボタンから意向調査画面に入ることができます。
3. 各立候補意思表明者のマニフェストもご覧ください。
4. 意向調査は選挙ではありませんので、複数選択することも可能です。各立候補意思表明者が適任と思えば、候補者氏名の右側の選択欄にチェックをつけてください。

## 会長・副会長立候補意思表明者

会 長 ウォリス サイモン  
辻森 樹

副会長 星 博幸  
中澤 努  
小宮 剛  
道林克禎

## ＜全国区代議員選挙投票と意向調査の期限ならびに開票＞

- \*全国区代議員の選挙投票と意向調査期間は、12月11日（木）10時から2026年1月8日（木）17時までの間です。
- \*持参や郵送、その他による投票は受け付けません。
- \*開票は2026年1月9日（金）午前10時からZoomによるオンライン会議で行います。開票の立ち会いをご希望のかたは、1月5日（月）までに選挙管理委員会（main@geosociety.jp）にお申し出ください。

以上、ご協力の程よろしくお願いいたします。



学会HP会員ページ（選挙システム）は  
←こちらから

## 代議員候補者名簿（受付順）

全国区：107名（定数99名）

注）\*印、\*\*印は、それぞれ会長、副会長立候補意思表明者（マニフェストは選挙システム内で公開されておりますので、そちらを参照下さい）

1	阿部	なつ江	海洋研究開発機構
2	市山	祐司	千葉大学
3	岩井	雅夫	高知大学
4	河上	哲生	京都大学
5	北村	有迅	お茶の水女子大学
6	齋藤	眞	産業技術総合研究所
7	坂口	有人	山口大学
8	佐々木	和彦	佐々木技術士事務所
9	高野	修	石油資源開発（株）
10	竹内	真司	日本大学
11	田村	嘉之	千葉県環境財団
12	羽地	俊樹	産業技術総合研究所
13	福島	諒	海洋研究開発機構高知コア研究所
14	星	博幸**	愛知教育大学
15	大和田（相田）	和之	（株）蒜山地質年代研究所
16	小松原	純子	産業技術総合研究所
17	佐々木	聡史	群馬大学
18	中澤	努**	産業技術総合研究所
19	宮川	歩夢	産業技術総合研究所
20	天野	一男	東京大学空間情報科学研究センター
21	金丸	龍夫	日本大学
22	山岡	健	産業技術総合研究所
23	山路	敦	京都大学
24	Wallis Simon*		東京大学
25	猪股	雅美	広島工業大学
26	岡本	敦	東北大学
27	加藤	潔	駒澤大学
28	清川	昌一	九州大学
29	竹原	真美	国立極地研究所
30	加藤	猛士	川崎地質（株）
31	川村	紀子	海上保安庁海上保安大学校
32	澤木	佑介	東京大学
33	高嶋	礼詩	東北大学学術資源研究公開センター
34	西	弘嗣	福井県立大学
35	山口	飛鳥	東京大学大気海洋研究所
36	杉田	律子	警察庁科学警察研究所
37	長谷川	卓	金沢大学
38	長谷部	徳子	金沢大学
39	黒柳	あずみ	東北大学学術資源研究公開センター
40	笠間	友博	箱根町役場（箱根ジオパーク推進協議会）
41	下岡	和也	関西学院大学
42	新正	裕尚	東京経済大学
43	中村	克	応用地質（株）
44	沢田	輝	富山大学
45	東野	文子	京都大学
46	藤井	正博	応用地質（株）
47	内尾	優子	国立科学博物館
48	岡崎	啓史	広島大学
49	亀高	正男	大日本ダイヤコンサルタント（株）
50	木村	英人	（株）ソイルシステム
51	細矢	卓志	中央開発（株）
52	中嶋	徹	富山大学
53	大柳	良介	国土館大学

54	尾上	哲治	九州大学
55	菊川	照英	千葉県立中央博物館
56	磯崎	行雄	東京大学
57	野田	篤	産業技術総合研究所
58	山本	和幸	（株）INPEX
59	内野	隆之	産業技術総合研究所
60	神谷	奈々	京都大学
61	清水	以知子	京都大学
62	外田	智千	国立極地研究所
63	浅沼	尚	京都大学
64	折橋	裕二	弘前大学
65	小宮	剛**	東京大学
66	辻森	樹*	東北大学
67	福地	里菜	鳴門教育大学
68	山崎	由貴子	NPO法人日本ジオパークネットワーク事務局
69	沢田	健	北海道大学
70	道林	克禎**	名古屋大学
71	岩野	英樹	（株）京都フィッシュン・トラック
72	香取	拓馬	フォッサマグナミュージアム
73	高柳	栄子	東北大学
74	青木	一勝	岡山理科大学
75	石橋	隆	地球科学社会教育機構
76	氏家	恒太郎	筑波大学
77	岡田	誠	茨城大学
78	桑野	太輔	京都大学
79	菅沼	悠介	国立極地研究所
80	常盤	哲也	信州大学
81	富永	紘平	土佐清水ジオパーク推進協議会
82	中野	伸彦	九州大学
83	奈良	正和	高知大学
84	野々垣	進	産業技術総合研究所
85	藤野	滋弘	筑波大学
86	細井	淳	茨城大学
87	松崎	賢史	東京大学大気海洋研究所
88	武藤	俊	産業技術総合研究所
89	天野	敦子	産業技術総合研究所
90	石輪	健樹	国立極地研究所
91	宇野	正起	東京大学
92	大坪	誠	産業技術総合研究所
93	澤井	みち代	千葉大学
94	副島	祥吾	深田地質研究所
95	原田	浩伸	鉄道総合技術研究所
96	保柳	康一	信州大学
97	松田	博貴	深田地質研究所
98	森田	澄人	産業技術総合研究所
99	八木	公史	NPO法人地球年代学ネットワーク
100	山口	耕生	東邦大学
101	吉田	健太	海洋開発研究機構
102	伊規須	素子	海洋研究開発機構
103	郷津	知太郎	（株）蒜山地質年代学研究所
104	佐藤	友彦	岡山理科大学
105	永治	方敬	早稲田大学
106	藤崎	渉	筑波大学
107	堀	利栄	愛媛大学

### 地方支部区

注）地方支部区は無投票当選につき投票は必要ありません。

北海道支部区：4名（定数5名）

1	広瀬	亘	北海道立総合研究機構
---	----	---	------------



- 2 重野 聖之 明治コンサルタント (株)
- 3 池田 雅志 北海道大学
- 4 横山 光 北翔大学

#### 東北支部区：6名 (定数8名)

- 1 都丸 大河 東北大学
- 2 平野 直人 東北大学
- 3 大友 幸子 山形大学
- 4 澤 燦道 東北大学
- 5 松井 浩紀 秋田大学
- 6 青木 翔吾 秋田大学

#### 関東支部区：37名 (定数42名)

- 1 藤原 靖 神奈川県立相模原弥栄高等学校
- 2 方違 重治 なし
- 3 佐藤 大介 産業技術総合研究所
- 4 佐久間 杏樹 東京大学
- 5 米岡 佳弥 産業技術総合研究所
- 6 河尻 清和 相模原市立博物館
- 7 代永 佑輔 (株) 地圏総合コンサルタント
- 8 小田原 啓 神奈川県温泉地学研究所
- 9 廣谷 志穂 アジア航測 (株)
- 10 本田 尚正 東京農業大学
- 11 澤田 大毅 石油資源開発 (株)
- 12 羽田 裕貴 産業技術総合研究所
- 13 松本 なゆた 中央開発 (株)
- 14 向山 栄 国際航業 (株)
- 15 山口 悠哉 (株) 地球科学総合研究所
- 16 山下 浩之 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 17 山本 秀忠 大日本ダイヤコンサルタント (株)
- 18 吉田 聡 宇宙航空研究開発機構
- 19 富田 一夫 鹿島建設 (株)
- 20 久田 健一郎 NPO法人地学オリンピック日本委員会
- 21 板宮 裕実 警察庁科学警察研究所
- 22 小俣 雅志 (株) パスコ
- 23 千葉 恵美 サンコーコンサルタント (株)
- 24 長田 充弘 日本大学
- 25 山田 来樹 産業技術総合研究所
- 26 荒井 良祐 川崎地質 (株)
- 27 飯田 和也 武蔵野大学
- 28 石井 輝秋 静岡大学防災総合センター
- 29 井上 卓彦 産業技術総合研究所
- 30 宇都宮 正志 産業技術総合研究所
- 31 鈴木 克明 産業技術総合研究所
- 32 納谷 友規 産業技術総合研究所
- 33 原 英俊 産業技術総合研究所
- 34 伊藤 剛 産業技術総合研究所
- 35 外山 浩太郎 神奈川県温泉地学研究所
- 36 三澤 文慶 産業技術総合研究所
- 37 藪田 桜子 産業技術総合研究所

#### 中部支部区：16名 (定数16名)

- 1 瀬瀬 佑衣 名古屋大学
- 2 平内 健一 静岡大学
- 3 安江 健一 富山大学
- 4 吉岡 翼 富山市科学博物館
- 5 森 宏 信州大学
- 6 安藤 寿男 福井県立大学
- 7 大谷 具幸 岐阜大学
- 8 山田 昌樹 信州大学
- 9 小河原 孝彦 フォッサマグナミュージアム

- 10 山田 桂 信州大学
- 11 大藤 茂 三和ボーリング (株)
- 12 小林 健太 新潟大学
- 13 高橋 聡 名古屋大学
- 14 森下 知晃 金沢大学
- 15 片岡 香子 新潟大学
- 16 竹内 誠 名古屋大学

#### 近畿支部区：11名 (定数11名)

- 1 川勝 和哉 兵庫県立姫路東高等学校
- 2 栗原 行人 三重大学
- 3 田中 里志 京都教育大学
- 4 和田 穰隆 奈良教育大学
- 5 大串 健一 神戸大学
- 6 小泉 奈緒子 和歌山県立自然博物館
- 7 里口 保文 滋賀県立琵琶湖博物館
- 8 多賀 優 龍谷大学
- 9 谷 保孝 大阪工業大学
- 10 奥野 充 大阪公立大学
- 11 窪田 安打 応用地質 (株)

#### 四国支部区：4名 (定数4名)

- 1 寺林 優 香川大学
- 2 藤内 智士 高知大学
- 3 楠橋 直 愛媛大学
- 4 西山 賢一 徳島大学

#### 西日本支部区：9名 (定数15名)

- 1 安東 淳一 広島大学
- 2 山本 啓司 鹿児島大学
- 3 礼満 ハフィーズ 鹿児島大学
- 4 遠藤 俊祐 島根大学
- 5 太田 泰弘 北九州市立自然史・歴史博物館
- 6 佐藤 峰南 九州大学
- 7 菅森 義晃 鳥取大学
- 8 富松 由希 福岡大学
- 9 池上 直樹 御船町恐竜博物館

# 2026 年度一般社団法人日本地質学会 研究奨励金募集

募集締切：2026 年 2 月 28 日（土）必着

## 若手野外地質研究者向けに研究奨励金を支給します！

日本地質学会では若手育成事業の一環として、野外調査をベースに研究を行う32歳未満の若手会員を対象とした研究奨励金制度を設けています。支給額は最大20万円で採択数は5件程度です。応募期間は上記の通りで、4月に支給を予定しています。詳細は、下記の奨励金規約・募集要項・申請様式をご覧ください（申請書式は、学会ウェブサイトよりダウンロードして下さい）。少しでも若手研究者の支援に繋がれば幸いです。該当する方は奮ってご応募下さい。

なお、本研究奨励金制度を含む日本地質学会の若手育成事業は、竹内圭史会員からの若手野外地質学者育成のための寄付金を原資として運用しています。

研究奨励金選考委員会  
委員長 内野隆之

### 2026年度一般社団法人日本地質学会研究奨励金 募集要項

#### 1. 趣旨

一般社団法人日本地質学会は、学術の発展と社会への貢献を目的として活動しており、その事業の一つとして、今後の活躍が期待される若手研究者へ研究奨励金（以下、奨励金）を支給します。

#### 2. 応募資格

- (1) 日本地質学会の正会員で、2026年4月1日時点で32歳未満の者
- (2) 野外調査を中核とした研究を行っている者
- (3) 同じ研究テーマで他から助成を受けていない（受ける予定がない）者
- (4) 学生・大学院生の場合は、指導教員の了解を得ている者

#### 3. 奨励金の支給額と採択件数

- (1) 1件：20万円以内
- (2) 件数：5件程度

#### 4. 募集期間

2026年1月1日～2026年2月28日

#### 5. 助成期間

1年または2年

（2026年4月～2027年3月31日または2026年4月～2028年3月31日）

※支給は2026年4月下旬を予定しています。

※病気・怪我、出産・育休等、やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合、執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで、使用期間を最大2年間延長できます。

#### 6. 対象となる費用

野外調査・研究に直接必要な経費（旅費、宿泊費、消耗品費、調査補助員雇用費、学会参加費、雑費、レンタカー代、有料道路代、通信・運搬費等）

※本奨励金に使用できるかどうかの判断が難しい費用項目については学会事務局までお問い合わせ下さい（学会ウェブサイトのFAQでも幾つかお知らせしています）。

※申請者が所属する機関・組織の間接経費（事務経費・一般管理費）は本奨励金の対象外とさせていただきますので、必要に応

じて所属機関での手続きをお願いします。

#### 7. 応募手続き

日本地質学会のウェブサイト（研究奨励金）より申請様式をダウンロードして下さい。

URL：http://www.geosociety.jp/

申請書は、学会事務局に郵送するかまたはPDFにして電子メールでお送りください。締め切りは2月28日必着です。

[宛先]

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F

日本地質学会 事務局 e-mail：main@geosociety.jp

※郵送の場合、「奨励金申請書在中」と明記して下さい。また、提出書類は返却致しません。

※提出書類および個人の情報は本奨励金選考目的以外には使用致しません。

#### 8. 選考

研究奨励金選考委員会での厳正な審査の上、対象者を決定致します。結果は4月中旬～下旬に学会ウェブサイトにて公表し、対象者には別途、通知します。なお、選考の内容に関するお問い合わせには応じかねます。

#### 9. 奨励金の中止および返金

次のいずれかに該当する事実が判明した際は、奨励金の返金を求めることがあります。

- (1) 同じ研究テーマで他から助成を受けていることが判明した場合
- (2) 申請内容に虚偽があった場合
- (3) 会費の滞納があった場合
- (4) その他、被支給者としてふさわしくないと理事会に判断された場合

※なお、他の助成金の採択などで本奨励金を辞退する場合は、速やかに学会事務局へご連絡下さい。また、既に入金済の場合は、返金をお願いします。

※奨励金の助成期間が2年の場合で、2年目に同テーマで科研費等の他の助成金が採択され、それを受ける場合は、奨励金の2年目分は返金をお願いします。

#### 10. その他

- (1) 本奨励金の使用期間が終了した後に、成果報告書および会計報告書をご提出頂きます。大学などの所属機関で会計報告書を作成される場合には、それを流用することも可能です。締め切りは1年期限の場合は2027年5月1日、2年期限の場合は2028年5月1日とします。報告書の様式は学会ウェブサイトに掲載しています。
- (2) 領収書については、各自、5年間の保管をお願いします（鉄道・バスについては不要）。
- (3) 研究成果の概要について、日本地質学会News誌等への投稿をお願いすることがあります。

#### 11. 問い合わせ先

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F

電話：03-5823-1150, FAX：03-5823-1156

一般社団法人 日本地質学会 事務局

e-mail：main@geosociety.jp

以上

### 一般社団法人日本地質学会 研究奨励金規則

#### (目的)

第1条 本規則は、若手野外地質学者育成を目的とした日本地質学会研究奨励金（以下、奨励金という）について定めるものである。

#### (支給対象)

第2条 奨励金を受けることができるのは、募集年の4月1日において満32才未満でかつ野外調査を中核とする研究を行う正会員とする。ただし、他の助成金制度等により既に助成を受けている、あるいは受ける予定の研究テーマは奨励金の対象外とする。同一会員による複数回の申請は妨げないが、支給を受けた場合、支給が終了した翌年度の申請はできない。

#### (金額、件数、期間および使途)

第3条 奨励金の支給額は1件20万円以内とし、年5件程度までとする。

2 奨励金の使用期間は、支給日から2年以内とし、申請者が申請段階で設定する。

3 奨励金の使途は、被支給者が実施する野外調査に係る旅費・宿泊費および関連する消耗品費・調査補助員雇用費・雑費等とし、承認された研究テーマに沿ったものに限る。なお、所属機関の間接経費・一般管理費は対象外とする。

#### (募集)

第4条 奨励金は公募とし、公募要領および申請書様式を日本地質学会News誌、学会ウェブサイト、学会SNS等を通じて会員に告示する。

#### (申請)

第5条 奨励金を受けようとする者は、所定の様式の申請書を学会へ提出する。申請者が学生の場合は、指導教員による申請書内容の確認を必要とする。

#### (研究奨励金選考委員会)

第6条 支給対象者の選考は、研究奨励金選考委員会（以下、選考委員会という）が行う。

2 選考委員会は、執行理事会が推薦し理事会が選出する5名程度の委員で構成される。委員長は委員の互選による。

3 選考委員会委員と申請者との関係が深い（親族、共同研究者、研究指導者等）と判断される場合は、一般社団法人日本地質学会利益相反防止規則に基づき、当該委員は該当する件の選考に関与しないこととする。それにより減数した委員の補充は行わない。

#### (支給対象者の決定)

第7条 理事会は、選考委員会から推薦された支給対象者について、支給の可否および支給額について審議・決定する。

2 学会は、理事会が支給を決定した者に、支給額を含む結果を通知し、支給申請書および誓約書の提出を求める。

#### (研究奨励金の支給)

第8条 学会は、支給対象者から支給申請書および誓約書が提出された後、決定された金額を所要の手続きを終え次第、速やかに支給する。

#### (被支給者の義務)

第9条 決定された奨励金を辞退する場合は、被支給者は速やかに学会へ連絡し、既に入金されている場合は返金する。なお、辞退した場合でも、支給決定の翌年度の申請はできない。

2 被支給者は、奨励金の使用期間が終了した後、指定された期日までに会計報告をする。

3 被支給者は、使用期間中に研究を中止せざるを得なくなった場合も含め、受給した奨励金に余剰が発生した場合は、会計報告前に速やかに学会へ返金する。

#### (使用期間の延長)

第10条 被支給者は、病気・怪我、出産・育休等、やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合、執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで、使用期間を最大2年間延長することができる。

#### (成果報告)

第11条 被支給者は、奨励金の使用期間が終了した後、指定された期日までに研究成果報告書を提出する。

#### (受給資格の失効)

第12条 被支給者が、同じ研究テーマで他から助成等を受けていることが後に判明した場合や、その他重大な問題を有していると理事会が判断した場合は、被支給者は受給資格を失効し、奨励金の全額を学会に返金しなければならない。

#### (改廃)

第13条 本規則の改廃は、理事会の議決による。

#### 附則

・この規則は2022年9月10日から施行する。

・2023年12月9日、一部改正。



## 各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

### 2026年度「深田研究助成」

趣旨：公益財団法人深田地質研究所は、「地質学や地球物理学等を基盤とする総合地球科学の研究、及び環境、防災、建設等社会発展に係る科学・技術の研究、ならびにそれらの融合的な研究を進めることにより、複合的な地球システムへの理解を増進し、その研究等の活動を継承する専門家の教育・人材育成及び研究助成活動を行うとともに広範な国際交流を通して、これらの先進的成果を社会に広

く普及せしめ、もって社会の持続的な発展に寄与すること」を目的として、「研究事業」「普及事業」「育成事業」「助成・顕彰事業」の4つの事業を掲げており、その事業の1つとして、「複合的地球システム及びその社会とのかかわりに関する研究等への助成ならびに顕彰」を行っています。

助成対象課題：複合的地球システム及びその社会とのかかわりに関する研究等を助成対象とします。ここでいう研究等とは、以下の①から⑥までの各領域のいずれかに該当するもので、野外調査もしくは試験、実験を含む内容であること。

①地質学に関する研究 ②応用地質学に関する研究 ③地球物理学に関する研究 ④地盤工学に関する研究 ⑤環境工学に関する研究 ⑥防災工学に関する研究

応募者の資格：大学またはこれに相当する教育・研究機関において、研究に従事している若手の個人で、所属教育・研究機関の研究指導者の推薦を受けた大学における助教あるい

は大学院博士後期課程在学者、または博士後期課程への進学が決まっている者、またはこれと同等と考えられる若手の研究者。

応募者が共同研究の一員である場合は、研究上の役割分担とその意義を明示して下さい。採択件数および金額：採択件数10件程度、1件あたり最大50万円程度

申請受付期間：2025年12月1日（月）～2026年2月2日（月）16時必着

※応募書類は、持参・送付どちらの方法でも受け付けます。ただし、電子媒体での応募は、受け付けません。

申請に関する問合せ先：公益財団法人 深田地質研究所 高木

e-mail: grant@fgi.or.jp

※問い合わせは、メールのみでの対応とさせていただきます。ご理解ご協力をお願い申し上げます。

詳しくは、<https://www.fukadaken.or.jp>

## CALENDAR

2026.1～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、（共）共催、（後）後援、（協）協賛。

### 2026年

#### 1月 January

##### 防災学術連携体10周年記念シンポジウム

「63学協会連携の軌跡と防災研究のあり方」

1月9日（金）10:30-18:30

ZOOM webinar（定員500名、要事前申込）

もしくは、Youtube（一般公開・申込不要）

[https://janet-dr.com/060\\_event/20260109.html](https://janet-dr.com/060_event/20260109.html)

##### （後）原子力総合シンポジウム2025

1月19日（月）10:00-17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）およびオンライン

参加費無料

<https://www.aesj.net/nationalsymp2025>

#### 2月 February

##### ★西日本支部令和7年度総会・第176回例会

2月22日（日）例会・総会

会場：岡山理科大学 50周年記念館

参加・講演申込締切：1月30日（金）

講演要旨提出締切：2月9日（月）

<http://www.geosociety.jp/outline/content0025.html>

#### 3月 March

##### 文部科学省主催 STAR-Eプロジェクト第5回研究フォーラム（研究成果公開シンポジウム）

3月3日（火）15:00-18:00（予定）

形式：オンライン開催（参加無料・要事前登録）

テーマ：情報科学×地震学 研究成果公開シンポジウム ～知をつなぎ、地震防災技術を拓く～

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kaihatu/jishin/projects/event.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jishin/projects/event.html)

##### 変形・透水試験機設計セミナー 2026

3月9日（月）～11日（水）

場所：京都大学 吉田キャンパス

<https://sites.google.com/view/designseminar2025/>

##### 海と地球のシンポジウム2025

主催：AORI・JAMSTEC

3月10日（火）～11日（水）

会場：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂

発表募集締切：2025年12月12日（金）

<https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2025/>

#### 5月 May

##### 日本地球惑星科学連合2025年大会

5月24日（日）～29日（金）

会場：幕張メッセ（千葉市美浜区）+オンライン開催

投稿早期締切：2月17日（火）17時

[https://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/](https://www.jpgu.org/meeting_j2026/)

#### 6月 June

##### 日本古生物学会2026年大会

6月26日（金）～28日（日）

会場：大阪公立大学

<https://www.palaeo-soc-japan.jp/>

#### 7月 July

##### （後）第63回アイソトープ・放射線研究発表会

7月8日（水）～10日（金）

会場：日本科学未来館7階 未来館ホールほか（東京・お台場）

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jrias2026>

#### 9月 September

##### ★日本地質学会第133年学術大会

（2026金沢大会）

9月13日（日）～15日（火）

会場：金沢大学角間キャンパス（石川県金沢市）



## 紹介

### 地質学者のように考える タイムフルネス、新たな時間認識

マーシャ・ビョーネルード 著  
江口あとか 訳



Princeton Univ. Press, 2018年発行,  
築地書館 2025年10月刊行, 四六判上製,  
256頁, ISBN978-4-8067-1693-8, 2,700円+税

本書は、地質学は時間や空間に対してどのような感覚で考えているのかを、アメリカの現役の構造地質学者が自分の体験を交えてわかりやすく記した好書である。

昨今、環境問題や自然災害、資源エネルギー問題に絡んで、地質学を糧としている側からは、「こんなに重要な科学を教える機会がどんどん縮小し、人材承継さえままならない」との嘆きが聞こえる。一方、地質学に馴染みのない側からは、「海山河の風景、石や鉱物、化石にのめり込む地質オタクのいうことは、面白そうだがわかりにくい」との囁きが聞こえる。そのような世相に直接接している地質学会の会員諸氏に本書はお勧めである。

以下に本書構成と評者の若干の感想を記してみよう。

**プロローグ 世界は時間そのもの** 評者の木村は、雪国の北海道で生まれ育ち、地質学の研究教育を生業とするようになった直後の1984年の夏、北極スバルパードのスピッツベルゲン島に調査助手で降り立った。著者も雪国で育ち、1984年夏に同時にそこにいたとの偶然に、いきなり本書に引き込まれた。

**第1章 豊かに存在する時間 タイムフルネス** 冒頭は、日本人には馴染みにくい。アメリカには未だに生物進化論を教えない州があり、その教育下で育った学生とのやりとりからはじまる。そのコミュニケーションの仕方も大いに参考になる。地質学の発展の影響下で、19世紀半ばに生まれたダーウィンの進化論への理解すら、社会文化的背景の違うところでは、当たり前ではないのである。多様な世界を目の当たりにする昨今、ショッキングな出だしである。

**第2章 時間を捉える道のり** 本章は、教科書でいえば地質年代学。地質学とは単純に記せば、堆積作用、変形・変形作用、火成作用のイベントの順番を岩石地層の累重・交切関係から決めることである。しかし数値を入れて何年前のイベントかと解き明かす研究は、今でも活発である。本書のタイトルにあるタイムフルネスという新造語は、宇宙の開闢から現在・未来まで、丸ごと理解しようという理念であるが、年代学にブレークスルーをもたらした年代測定法の発展と、それをめぐる社会・人間模様、恐竜絶滅や地球誕生など知りたいイベント年代についてわかりやすく記している。斬新な科学史にもなっている。

**第3章 地球の歩み** 大陸移動説、海洋拡大説からプレートテクトニクスという固体地球科学の大革命を経てなお変わらないゆっくりと進む造山運動という「斉一観」の変更を迫る章となっている。「斉一観」に対立する見方は「激変観（カタストロフィズム）」である。隆起浸食、あるいは沈降堆積のゆっくりとした蓄積が大地変貌過程の基本というのが18世紀以来の地質学的斉一観であった。しかし、著者は巨大地震津波・斜面崩壊という非常時の激変の繰り返しを大地を変貌させる基本だということを、巨大地震とスロー地震の関係性をめぐる最近の研究、大地の人為的破壊改変にも言及し強調している。日本列島に住むと「激変観」が当たり前に見えるが、世界人口の圧倒的多数は人生において地震すらほとんど経験しない。そのような大陸人へのメッセージと考えると興味深い章である。

**第4章 空気が変わる** この章は、地球史を通じての大気海洋の組成変化についての議論を紹介している。それは、固体地球進化・生命進化と関係し、大規模酸性化、雪玉地球、カンブリア生命爆発進化、大量絶滅事件などをめぐる活発な論争を概観している。固体地球のプレートテクトニクスは地球内部と表層との大規模物質循環を担っているが、過去どこまで遡れるのかは論争的である。太古代初頭から始まっているという「斉一説」意見と、スラブの負の浮力が原動力となりうる原生代以降の「激変説」との論争において、著者は後者を支持している。これは日本の研究者が90年代に付加体研究を太古代大陸研究へと拡張し太古代初頭からプレートテクトニクスが機能していたと提案した仮説とは異なっている。

**第5章 グレートアクセラレーション（人類**

**活動による大変動）** 産業革命以降の人類活動による地球温暖化をめぐる科学と社会と未来対策を論じた章である。長らく議論のあった地球温暖化の可否、そこに人類の人口爆発と人の関与による自然改造が原因とICPP（気候変動に関する政府間パネル）でも共通認識となった今、地質学はどうすべきかを記している。経済学や物理学の単純化因果論に基づいて自然改造を積極的に進めるべきことが具体例を元に世相を賑わしている。しかし、筆者は、長時間にわたっての環境変動には、未知の因果が関与していることは否定できず、積極的制御策には慎重であるべきだと論じている。因果関係の詳細な解明には地球の気候変動史を研究してきた地質学による様々な時間スケールの研究が重要と強調している。地質学徒にとって大きな励ましの章でもある。

**第6章 タイムフルネスつながる過去と現在と未来** 最終章で著者は地質学の哲学的側面を論じている。地質学はキリスト教の洪水説による世界激変説に対峙する斉一説を強く説くハットンやライエルによって18世紀につくられた。そして19世紀後半ダーウィンの生物進化の自然淘汰説と結びついた。しかし、地球環境も大地の変化も等加速度的という斉一観は変わらなかった。19世紀後半の産業革命以降、現在という時間が長い過去という時間から切り取られ、未来の環境の改造まで可能かのような傲慢な幻想が生まれている、と著者は主張する。残された未来地球時間（生命絶滅まで20億年）のうち少なくとも七世代未来（150年）までの利害を考えて地球と接すると安堵が得られよう、そうすることが科学の中での地質学の役割だ、と熱く呼びかけている。

(木村 学)





## 学協会・研究会報告

### 国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2025 年総会及び 第 22 回 Gondwana からアジア国際シンポジウム参加報告

吉田 勝 (Gondwana 地質環境研究所)・鈴木敬介 (産業技術総合研究所)

表題の会が11月2日から4日に韓国ソウルの延世大学で、付属の野外巡検が5日から6日にかけて韓国京畿道塊西部で行なわれた。参加者は韓国66人と国外11カ国89人であった。シンポジウム要旨集の第一著者の所属国と参加人数は、韓国 (32)、中国 (30)、インド (18)、マレーシア (4)、日本とイタリア (各3)、米国、タイ、オマン、バングラデッシュ、インドネシア (各1) であった。

シンポジウムの発表は口頭発表55題とポスター発表41題で、テーマ別では (発表1題に複数テーマあり) 広義のテクトニクス (43)、環境 (14)、資源 (10)、Gondwana (6)、ヒマラヤ (4)、その他 (15) で、地域別では中国 (25)、インド (17)、韓国地域 (14)、その他 (11) であった。全体として数年前までのシンポジウムに比較して Gondwana 関係が激減し、環境と資源問題が激増しているのは最近の Gondwana Research 誌掲載論文の構成変化を反映しているようである。

会議は2日夕方から参加登録とアイスブレイカーが大学そばのカフェで、3日は9題の基調講演、ポスター発表41題と IAGR 総会と晩餐会、4日は一般講演46題、ポスター発表と閉会式であった。

3日と4日の会場は延世大学新村キャンパスの総合ビル (The Commons) であった。3日の会場は大会議室で、ポスターは会場前のロビースペースであった。会場とロビーには茶菓が常時供給され、参加者はリラックスできた。ランチブレイクとポスター発表コアタイムの2時間にはシンポジウム会場前のポス

トスペースが大いに賑わった。

3日夕方の晩餐会と IAGR 総会では、2026年1月に始まる Sanghoon Kwon 新会長を始めとする IAGR 新役員が紹介され、満場の拍手を受けた。そして Gondwana Research 最優秀論文表彰が行なわれ、Suzanna H.A. ほか Plate tectonic cross-roads: Reconstructing the Panthalassa-Neotethys Junction region from Philippine Sea Plate and Australasian oceans and orogens. Gondwana Research 126 が表彰された。総会の後には IAGR 役員会で2025年事業と経理報告、2026年度事業と経理計画及び来年の総会開催場所が議論・承認された。

4日の一般発表は大会議場とその前のロビーを挟んだ講義室の並行セッションで46題が発表された。シンポジウム終了後の閉会式前には最優秀学生ポスター賞の発表と表彰があり、Andriyansyah N.F. (延世大学) と Lian H. (中国鉱業大学) が表彰された。その後、W. Srichan 教授により来年の IAGR 会議が11月11日～15日にタイのチェンマイ大学で行なわれることが報告され、多くの美しい写真が紹介された。

以下には、筆者らの個人的感想や発表の紹介等を記述する。

<吉田> 毎年参加している IAGR の会議だが、ここ数年の傾向として欧米からの参加が少なく、また隣国である日本からの参加も少なかった。上にも記述したが、これは最近の Gondwana Research 誌の掲載論文に Gondwana 関連論文が少なくなっていることと整合

的と言えるであろう。IAGR が環境問題、資源問題とその持続可能性関連の新しい国際誌2誌 (下記) を創刊したことも上の方向を示しているようである。以下には、気になった発表数題を紹介する。

M. Santosh による基調講演「Habitable Planet and Earth System: Challenges on Sustainability」では、まず、固体地球のテクトニクス過程とその歴史が地球環境・資源とその持続可能性に深く関与していることを示した。そして IAGR が30年以上にわたって当初の研究連絡誌 Gondwana News Letter に始まり、国際誌 Gondwana Research の創刊と発行継続によって地球科学の発展に大きく寄与してきたことを踏まえ、新たなオープン国際誌、人類生存環境とその持続可能性を主題とする「Habitable Planet」と、地球システム・資源とそれらの持続可能性を主題とする「Earth Systems, Resources, and Sustainability」(www.gondwanainst.org/symposium/2025/IAGR/Newjournals.pdf) を Scilight 社 (オーストラリア) の協力を得て創刊・発行が開始されたと報告した。IAGR を主導している発表者のこの報告は、今後の IAGR の方向を明確に示したのと言えよう。

N. Scafetta による基調講演「Impacts and risks of “realistic” global warming projections for the 21st century」では、地球温暖化とその対策に関する IPCC 発表のデータには使われた Global Climate Model、地球気温データ集積や将来の産業活動発展の見通しなどの問題があり、21世紀初頭の気温上昇を高く見積もりすぎていることが指摘され、将来の気候変動予測には科学的に客観的、現実的な取り組みの必要性が強調された。

Min Su Kang ら、「Paleoproterozoic ultrahigh-temperature metamorphism in the southwestern Yeongnam Masif (Gurye-Hadong area), South Korea and its geologic implication」では、韓国嶺南地塊の変花崗岩質岩と花崗片麻岩はいずれも900℃/10Kb前後の高温変成作用と550℃/1.6～4.2Kbの後退変成作用を1870 Ma頃に被ったことが示され、この地域は中温地温勾配下で時計回りの造山変成作用を被ったと結論された。この報告は日本列島との対比研究にとって看過できないと思われる。

Shuxuan Yan ら、「Tectonothermal events and early continental crustal evolution of the Yudongzi Complex on the northwestern margin of the Yangtze Block」では、この地域の角閃岩の地球化学的及びジルコン年代学の研究を行った。研究結果を既存データと合わせて総合的に検討した結果、Yangtze Craton の北縁-北西縁-南西縁は始生代に伸張テクトニクス、古原生代には収斂テクトニクスの場であったと考えられた。この研究は Gondwana ランド北縁の変動史の検討に重要なデータであろう。



写真1. 参加者の集合写真 (大会事務局提供)、前列中央右の IAGR 新会長 Sanghoon Kwon から左に吉田、IAGR 顧問 H.K. Gupta、前会長 Y.P. Dong と事務局長 M. Santosh。



(左) 写真2. ポスター風景。



(右) 写真3. 左から吉田、鈴木、Sanghoon Kwon教授。

＜鈴木＞韓国開催ともあり、日本人研究者の参加を数多く見込んでいたが、結果は真逆であった。参加者は私と吉田先生のみで、非常にアウェイな雰囲気での参加となった。しかし、新潟、クチン（マレーシア）に続く3回連続の参加が功を奏したのか、親しく接してくれる研究者も何名か居り、ほんと胸を撫で下ろした。また、大会組織委員長のSanghoon Kwon教授やその学生諸氏からの気配りを感じる場面も何度かあり、彼らの親切的な人柄に大変助けられた。記して感謝申し上げる。

さて、当のIAGRはと言うと、その講演内容は凄まじく多様化している。 Gondwanaとその周辺テレーンの変成岩・火成岩岩石学を主対象としていた時代から打って変わり、演題に名を連ねる研究地域・対象は実に様々である。これは、同位体年代測定・地球化学分析の発展や、多量の定量データの統合・比較を推進する、昨今の地質学研究的学際化が大

いに関わっているのだろう。私もその恩恵を受けている一人であるので、この流れは非常に好ましい。また、機械学習等の先進的手法を用いた講演も年々増え、IAGRは最早、地球科学の様々な研究を歓迎する前衛的なコミュニティへと変貌したようだ。

さらに驚くべきことは、IAGRが近年、“持続可能な開発目標（SDGs）”に極めてポジティブな姿勢を見せていることである。これはGondwana ResearchとGeoscience Frontiersの指針にも明記されているし、最近ではSDGs関連の論文を全面的に歓迎する新興雑誌（Habitable PlanetやESR）まで出版され始めている（前頁URL）。

この体制を牽引するのが、IAGRの事務局長であるM. Santosh教授だ。同氏はこれまで超大陸に関する論文をいくつも公表してきた、言わば近年のプレートテクトニクス研究の顔とも言える人物であるが、最近の仕事はもっぱらこの新しい方向の話であるようだ。今回の基調講演でも、地球史を通した固体地

球のテクトニックモードの変遷とその化石財産である鉱床・エネルギー資源の持続可能性について、自説を述べられていた。

一方、私は今回、佐渡島のペルム系に含まれる10-8億年前の碎屑性ジルコンの意義について発表した（Suzuki et al., 2025; <https://doi.org/10.1016/j.sedgeo.2025.106983>）。これは、日本では初となる、超大陸ロディニア由来の碎屑物の報告である。過去のIAGRでは、特に、Gondwanaと日本との関係に着目した研究成果を紹介してきたが、この度の発見は、ロディニアとその大陸片を含む中央アジア造山帯との関連性を考える重要な機会となった。また、これについて、中央アジア造山帯の発達過程を専門とする中国海洋大学のYongjiang Liu教授から好意的な反応をいただけたことは、大変喜ばしかった。

学会後の巡検では、韓国西部における“Boring Billion（18-8億年前）期”の縞状鉄鉱層、珪岩、角閃岩、花崗岩質片麻岩等を観察した。これらは全南大学校のYirang Jang准教授により最近明らかにされたもので、14億年前における超大陸コロンビアの大陸分裂に関連した物証とされている（Jang et al., 2026; [doi: 10.1016/j.gr.2025.10.004](https://doi.org/10.1016/j.gr.2025.10.004)）。

総じて、今回のIAGRへの参加は、韓国や日本を含むアジア東縁域に大小様々な形で超大陸関連の痕跡が残ることについての再認識と、自身の研究意欲を高めることに繋がった。来年度は、タイのチェンマイ大学での開催である。韓国に続いてまた辛いものを食べる羽目になるのかという思いもあるが、そこは目を瞑り、前向きに参加を検討しよう。



写真4. 晩餐会で、右からL. Darren (IAGR会計), J. Meert (Vice President), M. Santosh, C-X Yang (IAGR Secretary)。





博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(47)  
宮崎県総合博物館

## みやざきのジオストーリーを語る博物館

学芸員 赤崎広志・福島佑一

### 1. 「みやはく」の歩み

宮崎神宮を取り巻く緑豊かな鎮守の杜。そのなかに、「みやはく」こと宮崎県総合博物館があります。「宮崎の自然と歴史」をテーマに掲げ、郷土に根ざした文化の向上に貢献することを理念とした博物館です。学芸課職員は現在12名が在籍し、自然史分野の動物(2)・植物(3)・地質(2)、歴史分野の考古(1)・歴史(2)・民俗(2)の各部門に分かれ、調査研究、展示や教育普及に取り組んでいます。

当館のルーツは昭和26年(1951)に設立された「宮崎県立博物館」にあります。当初は神宮境内に立地し、歴史分野の展示のみでした。昭和46年(1971)に自然および美術部門が新設され、県民文化ホールを併設したことで「総合博物館」としての歩みが始まりました。開館から20年が経過した時点で、常設展示の内容の一新や社会教育施設としての位置づけを考慮する必要が生じ、さらには美術部門の分離独立も構想されたことから、平成5年(1993)より再編整備に着手しました。21世紀に向けて楽しく開かれた体験型の博物館をめざし、展示が大幅に改修され、リニューアルオープンしたのは平成10年(1998)のことです。その後、平成17年(2005)からの常設展示の無料化、平成19年(2007)の県民文化ホールの閉館を経て、令和3年(2021)に開館50年を迎えました。

### 2. 地質部門の展示：宮崎の大地

自然史展示室に足を踏み入れ、まず目に飛

び込むのは照葉樹林のジオラマです。ブナの森や日向灘の海底などのジオラマも配置されており、実物標本などとあわせて、宮崎の豊かで多様な動植物相を知ることができます。

フロアを奥へ進むと現れるのが、「門柱」のように屹立した中新世の尾鈴溶結凝灰岩です。大地のダイナミックな活動が生み出したモニュメントを入口に、地質部門の展示「宮崎の大地」が始まります。ここでは、おおむね時代順に宮崎の地史を紹介しています。

最初のコーナーは「赤道からやってきたサンゴ礁」です。「宮崎県の化石」に選定された五ヶ瀬町祇園山の「シルル紀-デボン紀化石群」の床板サンゴ類を中心に、フズリナ類、モノチス類など、黒瀬川帯・秩父帯産出の化石を展示しています。これらに関連して、日之影洞岳産の全長3.8m、約10tの厚歯二枚貝メガロドン石灰岩の屋外展示もあります。また、四万十帯についてのコーナーでは、諸塚層群や日向層群などの付加体、日南層群のようなオリストストロームのほか、タービダイト、放散虫や生痕化石などに焦点をあて、県内の基盤岩の成り立ちについて紹介しています。

さて、南国・宮崎のイメージに欠かせない風景といえば、宮崎市青島から日南海岸一帯にみられる「鬼の洗濯岩」です。これは宮崎層群の砂岩泥岩互層からなる国内最大規模の海食台であり、「県」の岩石に選定されています。その形成過程については、様々な年代の来館者からよく質問されます。「宮崎平野

### info

#### 宮崎県総合博物館

〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮2丁目4番4号

電話：0985-24-2071

<https://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週火曜日、年末年始ほか

を支える鬼のせんたく岩」のコーナーでは、そのような疑問に答える映像展示を行っています。さらに、宮崎層群から産出する化石群についても、多数の標本を展示しています。なかでも、中新世後期(約8～7 Ma)の造礁サンゴやハシナゴソデガイなどの熱帯性化石群集の収蔵数は400点を超えます。このほかにも、宮崎層群の約1000万年におよぶ堆積史のなかで進化を遂げたスタレガイ類やイタヤガイ類の形態変化を追うことができる展示もあります。また、県内では宮崎層群を中心に炭酸塩コンクリーションも多数見つかっています。関連する屋外展示として宮崎市田野町産出の直径約1.2mの巨大な球状コンクリーションや、新富町産のツキガイモドキの冷水化学合成群集化石の岩塊などもあります。

化石ばかりが宮崎の大地の特色ではありません。「宮崎は火山の博物館」と題するコーナーでは、中新世の大崩山(おおくえやま)コールドロンと環状岩脈をはじめ、高千穂峡や日向岬のような柱状節理が織りなす景勝地、火砕流台地などを形成する小林、加久藤、始良の火山活動、現在も躍動する霧島火山群を取り上げ、それぞれの溶結凝灰岩などを展示しながら、火山の脅威と恩恵について紹介しています。

宮崎平野を特徴づける段丘地形に関しては、「原(ばる)って何?」として展示しています。段丘面は、農地として利用できる平坦面として「原(ばる)」と呼ばれて親しまれています。ここでは、茶臼原(ちやうすばる)、三財原(さんざいばる)、新田原(にゅうたばる)、西都原(さいとばる)などの段丘に注目しながら、剥き取り地層、海進シミュレーションをとおして、その形成過程について紹介しています。

「宮崎の土台をつくるもの」というコーナ



(左) 図1. 全長3.8mのメガロドン石灰岩。(右) 図2. 宮崎層群産熱帯海洋生物群集ハシナゴソデガイ・造礁サンゴ化石





(上) 図3. 宮崎県内の岩石標本43種、(下) 図4. 生命進化史コーナーと地球シアター。

ーでは、世界の鉱物とともに県内産鉱物を展示しています。とりわけ、檜峰鉱山の含銅硫化鉄鉱、「県の鉱物」となった土呂久鉱山のダンブリ石、大崩山周辺の斧石やベスブ石のようなスカルン鉱物など、かつて稼働していた県北部の鉱山に由来する標本は、鉱物ファン垂涎といえるでしょう。くわえて、トピック的に「誕生石」や蛍光鉱物も紹介し、来館者の興味をそそる工夫をしています。さらに、県内産の岩石を俯瞰できるコーナーも設置しています。ここでは43種の岩石標本を一部研磨し、壁面展示しています。

当館の人気展示のひとつに、「生命進化史」コーナーがあります。これは宮崎の地史とは独立したもので、理科や地学の教科書に登場する主要な古生物を地質時代ごとに紹介しています。ティラノサウルス (MOR-555) やサイカニアといった恐竜類、翼竜、魚竜、ナウマンゾウが展示されています。また、このコーナーには「地球シアター」という映像コンテンツもあります。番組は約10分程度のもので2種類で、1時間に2回、展示ケース背後から大型スクリーンがせり上がり上映されます。内容はリニューアル当時から使用している『地球と宮崎の生いたち』と、その後で作成した現場ロケにCGアニメを合成した『宮崎地質探検隊』です。これは、霧島火山を模した「大地くん」というキャラクターが地球を模した「ジオ博士」に導かれ、青島、高千穂峡、霧島火山群をめぐる、ジオポイントを集めていくというゲーム感覚のストーリーでファミリー層に好評です。

リニューアルオープンから年月が経過するなかで、最新の研究成果を常設展示に反映させるににくいことが課題でした。そこで、地質部門の展示スペースの冒頭にあった地球誕生のコーナーを縮小し、「地質情報コーナー」と称する幅約2 mの2段組ガラスケースを設置することで、定期的な入れ替え展示を実施して

います。現在は、当館学芸員らによって近年採集された長さ約1.5 mの宮崎層群産ヒゲクジラ類の上顎・下顎骨や幅約50 cmの五ヶ瀬町産のアンモナイト「シャスティクリオセラス」、また県内で多数発見されている球状炭酸塩コンクリーションなどを展示しています。

### 3. 教育普及および特別展

主な普及活動としては、学校・社会教育支援の出前授業・講演会・観察会と、博物館講座があり、年間15回以上実施しています。なかでも博物館講座は大きなウェイトを占めるものです。野外講座では、県内の代表的な景勝地のジオストーリーを紹介することに主眼を置いています。これまでに、青島や鶴戸神宮が立地する日南海岸、火砕流が生み出した高千穂峡と関之尾滝、霧島火山群などにおいて講座を展開してきました。とりわけ人気が高いのは「化石採集会」です。宮崎層群高鍋層の化石を川南町で採集し、標本作成までをレクチャーする定番の講座となっています。室内講座では化石レプリカ製作、化石クリーニング体験、県内産岩石をパネルに貼りつける「図鑑」製作、顕微鏡を用いた微化石・鉱物観察など、多様な内容で実施しています。また、県内の地質や特別展に関連する学術講演会も行っています。

このほか、レファレンスも大きな普及業務のひとつです。一般の方からの岩石・化石の鑑定依頼に始まり、夏休みの自由研究のお手伝い、報道機関や研究機関からの問い合わせなど、2名の学芸員で年間100件以上に対応しています。これらの問い合わせから思わぬ「発見」がいくつもあります。鑑定依頼で持ち込まれた約40万年前の種子化石群から植物化石の研究者との共同研究が始まったり、小学生の親子が海釣りをしていたときに見つけた化石が古第三紀の基盤のヒゲクジラ類の発見につながったり、登山者が稜線で拾った丸い岩石が、大崩山花崗岩体の上部ルーフ中のコンクリーション新産地であったり、という事例がありました。前述のアンモナイトやメガロドン石灰岩も外部からの情報提供によって収集されました。

地質部門による特別展は、基本的には学芸員の独自企画となっており、数年に1度実施しています。近年では、「ティラノサウルス博2025 (2025)」「化石タイムカプセル (2024)」「絶滅モンスター展 (2021)」「南極展 (2017)」「美しき宮崎の滝200 (2015)」「よみがえる恐竜時代 (2013)」「きらめく水晶と鉱物 (2011)」「恐竜ワールド2009 (2009)」を開催しています。

### 4. 研究団体・機関との連携

調査研究を遂行にあたって、専門的な人材や設備面からも、県内外の研究団体および機関との交流は欠かせません。当館では、県内の宮崎地質研究会、宮崎応用地質研究会、宮崎化石研友会、宮崎の自然と環境協会などの団体と連携し、情報交換、展示における資料

借用・貸出、講演会の講師派遣といった相互協力をしています。

研究機関との連携では、京都大学防災研究所宮崎観測所の協力によるエントランス展示や講演会を開催してきました。また、当館が平成21年 (2009) より継続してきた炭酸塩コンクリーション調査がきっかけとなって、令和元年 (2019) に名古屋大学博物館との連携協定を締結し、共同研究を展開しています。前述の田野町産コンクリーションはこの連携のなかで収集されたものであり、両施設の玄関先に展示されています。令和6年 (2024) には、「化石タイムカプセル」と題したコンクリーションに関する特別展を共同主催し、県内に限らず国内外で収集されたコンクリーションの展示や、基礎から応用科学的な研究の最前線までを紹介しました。

### 5. 「みやはく」のこれから

開館から55年が経過し、改修や補修を重ねながら、よりよい運営を目指してきましたが、バックヤードにいと、物理的な建築強度の限界を迎える日がそう遠くないことを痛感します。館内Wi-Fiの整備、研究紀要など印刷物のデジタル化、広報のSNSへのシフト、博物館法の改正など、取り巻く環境も大きく動いています。そのなかで、令和6年 (2024) には1階エントランスに幅8 mのスクリーンを設置し、「神楽と神話」「日向灘の海棲生物」「白亜紀の恐竜」をテーマにした、触って楽しむインタラクティブ映像コンテンツを展開しました。また、収蔵標本の電子データベースの構築とオンライン公開にも取り組んでいます。

さまざまな課題や制約があるなかでできることを模索しつつ、県民の文化の向上に役立つ施設として、これからも地に足をつけながら宮崎の地質の探究と普及に努めます。



(上) 図5. 野外講座「化石採集会」のようす (下) 図6. 直径1.2 mの宮崎層群産の球状炭酸塩コンクリーション



## 開催報告「2025年度 学生のための地質系業界説明会」 ～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

地質系業界説明会は、学部生や院生（以下、学生）、教職員に、将来の就職先の選択肢の一つである地質系業界の実態や各社の業務内容などを知っていただくために、毎年、の学術大会にて開催している行事です。今年度の熊本大会では、中日の9月15日（月・祝）に対面説明会を実施しました。開催にあたっては、参加企業・団体の動画または静止画による紹介資料を大会HPに事前に掲載し、広く学生に参加企業・団体について広報した。

### 1. 参加企業・団体

今年の参加企業・団体数は47企業・団体で、このうち26企業・団体が賛助会員であり、この説明会を契機に3社が新たに賛助会員になってくださった。また、47企業・団体のうち、40企業・団体が対面説明会に参加され、7企業・団体が大会HPへ紹介資料の掲載のみであった（表1）。

### 2. 対面説明会

①開催日時：2025年9月15日（月）10：00～17：00

※過年度13：00～17：00開催、今年度は開催時間を3時間長く設定

②開催場所：熊本大学黒髪キャンパス（熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1）

黒髪北地区・全学教育棟2階の6教室（B201、B202、D201、D202、D203、E204）

③参加費：無料（会員・非会員を問わず）

④参加企業・団体数：40企業・団体

⑤参加学生：2025年度：27大学、97名、延べ255訪問、学生1名当たり2.6企業・団体訪問、1企業・団体当たり6.4名訪問（過年度の参加状況は表2参照）

※今年度はスタンプラリーを実施した（図1：訪問数が5企業・団体以上の学生に対して熊本グッズをプレゼントする企画）。

### 3. アンケート結果

アンケートは、対面説明会に参加した企業・団体と学生に行った。アンケート結果の詳細については、本報告の後に掲載する。

(1) 企業・団体（回答数：47企業・団体のうち34企業・団体から回答）

対面説明会について、会場（ブース、パネルの大きさ、電源の数など）、開催時間、参加費用について、概ね適正であるとの回答が多かった。また、今後の地質系業界説明会の開催の希望については、9割以上が対面開催を希望するとの回答があった。一方で、会場の配置や学生の動線が悪い、事前予約した学生が時間通りに来ない、などの課題をご指摘頂く回答もあった。

このほかいただいた主なご意見は下記の通りである。

- ・30分くらいの集中イベントとして業界全体説明会（ポスターコアタイムやオーラル発表のない時間を設定して）をした後に、個別の企業説明を実施してはどうか。
- ・地質系学科学生とのコンタクト機会を大学単位で開催してほしい。
- ・業界説明会を夏前での開催も検討してほしい（9月開催だと一般的な企業のインターンシップ時期を過ぎている）。
- ・学生にできる限り多くの企業をまわるような施策（今回のス

表1 参加企業・団体一覧（2025年度 熊本大会）調査結果 まとめ

【対面説明会・50音順（紹介資料のHP掲載含む）】 40企業・団体

番号	企業・団体名	会員種別
1	株式会社アーステクノ	賛助会員
2	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング	非会員
3	UBE三菱セメント株式会社	非会員
4	株式会社エイト日本技術開発	賛助会員
5	応用地質株式会社	賛助会員
6	株式会社奥村組	非会員
7	株式会社開発工営社	非会員
8	川崎地質株式会社	賛助会員
9	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	賛助会員
10	協和地下開発株式会社	非会員
11	K&Oエナジーグループ株式会社	非会員
12	原子力発電環境整備機構	非会員
13	株式会社建設技術研究所	賛助会員
14	鉱研工業株式会社	非会員
15	国際航業株式会社	賛助会員
16	産業技術総合研究所 地質調査総合センター	非会員
17	サンコーコンサルタント株式会社	賛助会員
18	三洋テクノマリン株式会社	賛助会員
19	三和ボーリング株式会社	非会員
20	住友金属鉱山株式会社	非会員
21	石油資源開発株式会社	賛助会員
22	大日本ダイヤコンサルタント株式会社	賛助会員
23	太平洋セメント株式会社	賛助会員
24	株式会社地圏総合コンサルタント	賛助会員
25	地熱エンジニアリング株式会社	非会員
26	中央開発株式会社	賛助会員
27	株式会社中部森林技術コンサルタンツ	賛助会員
28	一般財団法人電力中央研究所	非会員
29	株式会社ドーコン	非会員
30	ドリコ株式会社	非会員
31	日鉄鉱業株式会社	賛助会員
32	日特建設株式会社	非会員
33	日本海洋事業株式会社	賛助会員
34	株式会社ニュージェック	賛助会員
35	株式会社パスコ	賛助会員
36	株式会社阪神コンサルタンツ	非会員
37	明治コンサルタント株式会社	賛助会員
38	明大工業株式会社	賛助会員
39	八洲開発株式会社	賛助会員
40	八千代エンジニアリング株式会社	賛助会員

【紹介資料のHP掲載・50音順】 7企業・団体

番号	企業・団体名	会員種別
1	ENEOS Xplora株式会社	賛助会員
2	株式会社開発調査研究所	非会員
3	共立工業株式会社	賛助会員
4	J X金属探検株式会社	非会員
5	住友資源開発株式会社	非会員
6	株式会社東亜建設コンサルタント	非会員
7	株式会社 日さく	賛助会員

タンプラリーのような）を継続してほしい。

運営方法などの課題は残るものの、来年度の地質系業界説明会への参加希望は高いことが分かった。今年度の参加企業・団体のご担当者様よりいただいたご意見を来年度の企画・運営に活かし改善につなげて、本企画を継続して開催していきたい。

(2) 学生（回答数：97名の参加者のうち11名から回答）

回答率が低いものの、対面説明会の満足度（「大変満足した」、「満足した」）は約8割であり、参加された学生にとって良い機会となった。業界説明会の開催について、7割以上の学生が学会発信（HPやメール）で事前に知り、残りは当日開催を知っ

## 委員会だより

表2 企業説明会への過年度の参加状況

	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
学術大会	熊本	山形	京都	早稲田
参加大学(校)	27	21	27	20
参加高校(校)	0	1	0	0
参加学生(名)	97	66	78	54
延べ訪問数(回)	255	160	216	202
参加企業・団体(企業・団体)	40	35	32	24
学生1名当たりの平均訪問数(企業・団体)	2.6	2.4	2.8	3.7
1企業・団体当たりの平均訪問者数(名)	6.4	4.6	6.8	8.4

ている。回答いただいた学生のうち、当日参加の学生の数が、事前申し込みをした学生の数を上回っており、当日の掲示物やスタッフによる声掛けも周知に一定の効果があったと思われる。一方で、大会HPに掲載した企業・団体の紹介資料について、事前に聴講したのは1割、聴講していないが4割、知らなかったが5割だった。この点に関して、参加される企業・団体を知っていただく方法の検討が必要であると考えられる。なお、学生が得たい情報として、「入社後の仕事内容」「給与・休日などの福利厚生」「雰囲気や企業風土、社風」の順に多く、次いで、「全体的な事業内容」「出張や転勤の状況」であった。

いただいた主な感想・ご意見は以下の通りである。

- ・いろいろな企業の紹介をしていただけて、抽象的な質問にも丁寧に答えてくれた。
- ・時間の余裕があり、込み合うこともなかったので企業についてしっかりしることができた。
- ・説明会当日は、聴講したい発表があるほか自分の発表もある



写真 対面説明会の様子



図1 訪問学生に向けたスタンプラリー企画

ので、事前に企業を選択し訪問する時間を決めることは難しい。

- ・1日限定だと、その日に発表がある学生が十分見に行けない。多くの学生に地質系業界の企業・団体のことを知ってもらう良い機会となるよう工夫していきたい。

#### 4. 謝辞

参加された多くの企業・団体、とくに当日説明対応をしてくださいましたご担当者様、会社訪問された学生の皆様、対面説明会会場の手配にご尽力いただきました熊本大学のLOC委員の皆様、開催についていろいろ段取りをさせていただきました行事委員会および学会事務局の皆様、本説明会情報を広めてくださいました広報委員会の方々、そして学生に情報を伝達していただきました多くの大学教員の皆様に深く感謝申し上げます。

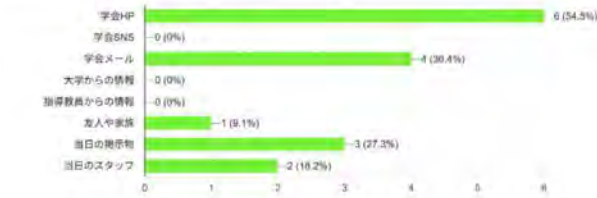
(地質技術者教育委員会 委員 藤井 正博)





①学生のアンケート結果（97名の参加者のうち11名から回答）

本説明会をどのように知りましたか？（複数回答可）  
11件の回答



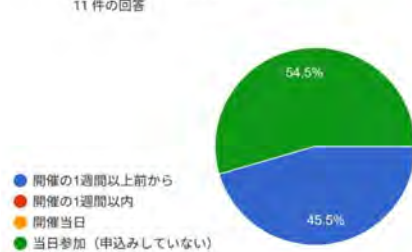
説明会を知るため、事前にどのツールがあったらよかったですか？（複数回答可）  
9件の回答



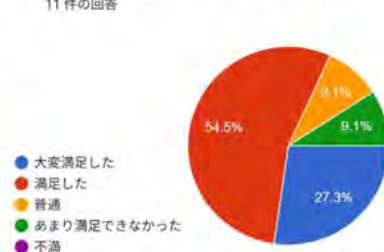
企業・団体から得たい情報は何か？（最大3つまで選択）  
11件の回答



申し込み時期はいつですか？  
11件の回答



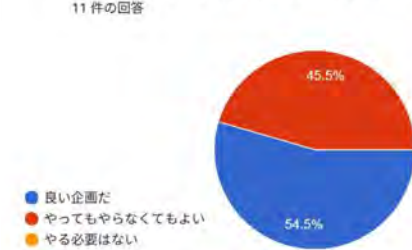
本説明会の満足度はいかがでしたか？  
11件の回答



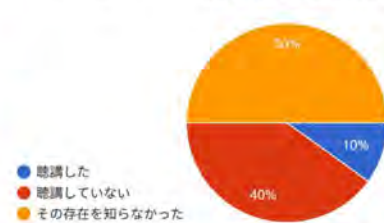
本説明会の開催をいつ知りましたか？  
11件の回答



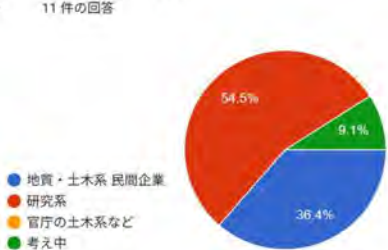
スタンプラリーの企画はいかがでしたか？  
11件の回答



事前に企業・団体の紹介ビデオ・資料（HPに掲載）を聴講しましたか？  
10件の回答

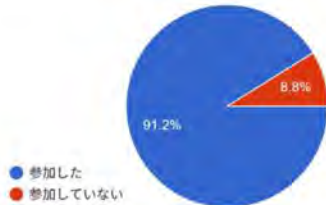


将来進みたい方向  
11件の回答

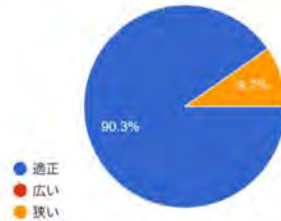


②企業・団体のアンケート結果（47企業・団体のうち34企業・団体から回答）

参加状況 対面説明会  
34件の回答



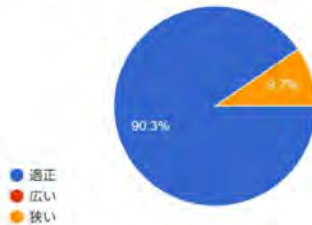
ブースの広さはどうでしたか？  
31件の回答



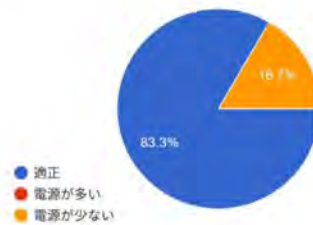
開催時間（10:00～17:00）はどうでしたか？  
31件の回答



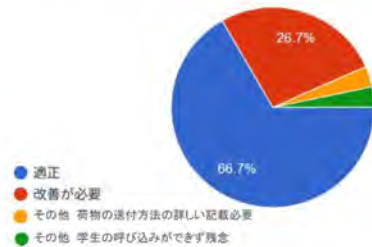
机の広さ、パネルの大きさはどうでしたか？  
31件の回答



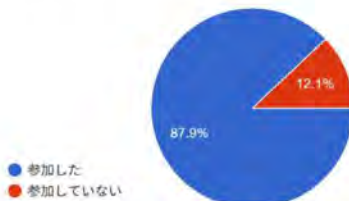
電源の数はどうでしたか？  
30件の回答



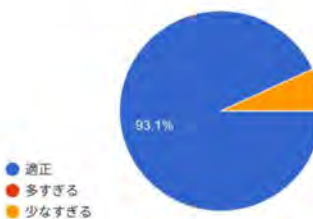
運営方法はどうでしたか？  
30件の回答



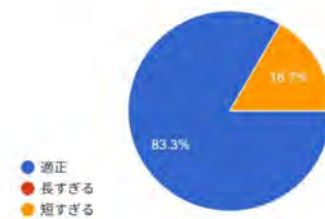
参加状況 大会HPへの資料掲載  
33件の回答



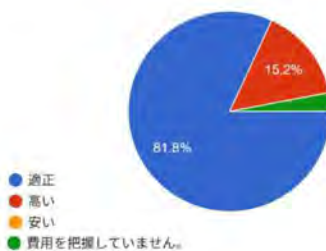
紹介資料のボリュームはどうでしたか？  
29件の回答



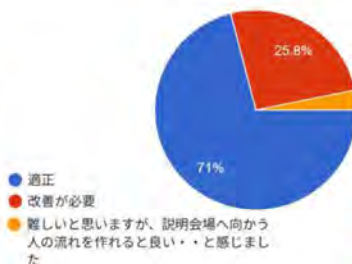
紹介資料を学会HPに年末まで掲載することに  
ついてはどうですか？  
30件の回答



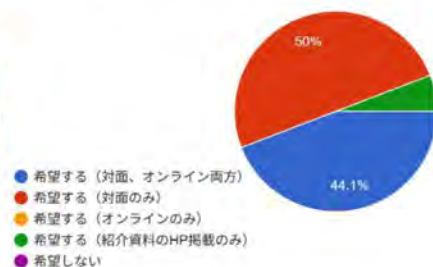
参加費用はどうでしたか？  
33件の回答



全体の運営や連絡方法・内容についてどう  
でしたか？  
31件の回答



今後も業界説明会の開催を希望しますか？  
34件の回答





☆関東支部

案内

サイエンスカフェ  
「地質から読み解く日本酒のこれから」

仕込水と地形・地質の関係に焦点を当て、香りによる地酒の楽しみ方を提案します。

講師：久田健一郎氏（日本地質学会関東支部長、元筑波大学）  
ファシリテータ：岡山悠子氏（サイエンスコミュニケーター）  
ゲスト：稲葉芳貴氏（稲葉酒造・茨城県つくば市）、松井真知子氏（松井酒造店・栃木県塩谷町）

日時：2026年2月15日（日）14:00-17:00

場所：Beer&Cafe Engi【縁起】（つくばセンタービル1階；TXつくば駅から徒歩5分）

協力：つくばまちなかデザイン株式会社

参加費：入場料2000-2500円（一銘柄一杯ずつお酒または仕込み水のテイスティングが可能です。また、別途テイスティング用のお酒を購入できる予定です。詳細はPeatixに記載します）

定員：50名（先着）

一般向けの内容です（お酒を飲まない方でもご参加いただけます）

お申し込みはPeatixを利用したweb決済で受付です。1月上旬に受付開始予定。

お申し込みの詳細は、関東支部のWebサイト（<https://geosociety.jp/outline/content0201.html>）をご参照ください。

問い合わせ先：サイエンスカフェ担当（[geo.soc.sci.cafe@gmail.com](mailto:geo.soc.sci.cafe@gmail.com)）

☆関東支部

報告

講演会「日本地質学会選定  
県の石－栃木県の岩石・鉱物・化石－」  
開催報告

日本地質学会は、2016年5月10日（地質の日）に、全国47都道府県のそれぞれで特徴的に産出する岩石・鉱物・化石を「県の石」として選定することを発表しました。関東支部では関東

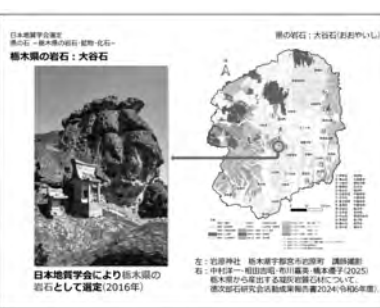
地方の「県の石」について順次講演会を行ってきました。今回その第6弾として、栃木の一般市民の方々や学会員のために、栃木県立博物館と共催し、現地とオンラインのハイブリッド形式で、栃木県の「県の石」の講演会を開催しました（日時：2025年9月27日（土）13:00～16:00；場所：栃木県立博物館講堂）。募集定員は現地100名、オンラインは100名で、今回からPeatixを使って参加費1000円を参加者に振込んでもらうことにしました。参加者はスタッフ合わせて現地23名、オンライン21名、合計44名の参加がありました。CPD単位取得者（2.5単位）は20名でした。会員の割合は約5割でした。

栃木県の鉱物については、「黄銅鉱と足尾銅山」というタイトルで、布川嘉英氏（栃木県立博物館）が講演を行いました。講演では、黄銅鉱と足尾銅山の概要、足尾銅山の歴史、銅製錬に関する概要の説明、近世から昭和に至る製錬技術の変遷、明治～大正時代の鉱害対策、コッレル電気集塵機や自熔炉の導入による効率化や製錬排ガスの無公害化に向かう話など、当時の貴重な写真や図がたくさん映し出されながらそれらの詳細な説明がなされていきました。

栃木県の岩石については、「県の岩石：大谷石」というタイトルで、橋本優子氏（近代建築・デザイン史家、文星芸術大学非常勤講師）がオンラインで講演を行いました。まず、大谷石、建材としての大谷石の歴史（張石蔵など）が紹介され、その後、大谷石を世界に知らしめた鉄筋コンクリート造石張の帝国ホテル新館（ライト館；全館竣工1923年；建築様式、風土的モダニズム；設計、フランク・ロイド・ライト）、ライトの建築に対する考え方（プレーリー・スタイル、オーガニック・アーキテクチャー）、ライトと弟子の遠藤 新の建築物について詳細に説明されました。また、ライトがもたらした影響については、宇都宮市内の石材建築物などを例に挙げて紹介されていました。

栃木県の化石については、「県の岩石：木の葉石」というタイトルで、相場博明氏（財団法人教育実践学研究所長）が講演を行いました。最初に、木の葉石の形成環境が説明されました。その後、相場氏が記載した数多くの昆虫化石の内、極めて珍しい昆虫化石（絶滅した昆虫や現在の日本にいない昆虫など）の写真が映し出され、それらの新発見の重要性を詳細に説明されていました。最後に、この湖成層に産出する昆虫化石が世界的にいかに貴重かを説明されていました。

アンケートは主に会員の皆様から回答がありました。講演内容は評価5（5段階評価）が一番多かったです。また、申込みから当日までの運営に関しては評価4・評価5が多かったです。良かった点としては「オンラインなので参加し易かった」、「それぞれの話題は専門家からしか聞けないような内容でかつ分かりやすかった」などでした。また、良くなかった点としては「会場の音声聞き取りにくかった」、「Peatixに慣れてなく混乱した」などでした。今後の日本地質学会関東支部に期待する講演会、シンポジウム、見学会等については「以前の地質サミットのような各地域の地史を総合的に議論するシンポジウム」。



左から、布川嘉英氏、橋本優子氏、相場博明氏

「防災と地質」、「一般市民や小学生や中高生の地学の楽しさを広める企画」、「オーソドックスな地点の巡検」、「ジオパークに関する講演」、「現地参加もある講演会」などでした。関東支部に対するご意見ご要望については、「今後もweb聴講が可能な講演会を継続していただきたい」などのご意見をいただきました。

布川氏・橋本氏・相場氏のご講演のお陰で大変実りのある会になったのではないかと思います。また、栃木県立博物館関係者の方々、学芸員の河野氏には講堂やオンラインの準備をしていただきました。これらの方々に厚く御礼申し上げます。

講演会県の石シリーズによって、各地域で様々な分野の講演者・会員・参加者の皆様に会うことができました。このような貴重な出会いは、今後の支部活動の大いなる進展につながるものと考えております。来年度は群馬県の「県の石」講演会を

開催する予定です。

(駒澤大学 加藤 潔)

## 2025年度関東支部功労賞募集

対象者：支部活動や地質学を通して広く社会貢献をされた  
関東支部内に在住の個人・団体

\*社会貢献や活動の評価においては、必ずしも学問的な成果を問うものではありません。

公募期間：2025年12月15日（月）～2026年1月16日（金）

詳しくは、学会HPまたはニュース誌11月号をご参照下さい。

# 地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様に、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

## 論説

愛媛県芸予諸島、伯方島に産するエピ閃長岩  
福井堂子、齊藤 哲

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2025.0014>

愛媛県伯方島の花崗岩体中に見出した、初生的な石英に乏しい閃長岩質岩石について、野外産状記載、岩石記載、全岩化学組成分析をおこない、その成因を議論した。当地域の閃長岩質岩石は色調の違いにより真珠色閃長岩と牡蠣色閃長岩に区分される。真珠色閃長岩は露頭中に 0.2-12.0 mm 程度の空隙が認められる。一方、牡蠣色閃長岩は露頭中に空隙は認められないが、鏡下観察からは 0.05-0.1 mm 程度の微細な空隙が、有色鉱物の集合体の粒間に認められる。このような記載岩石学的



特徴から、当地域の閃長岩質岩石は、花崗岩類中の石英の溶脱と空隙の生成を経験したエピ閃長岩であると考えられる。また、真珠色閃長岩は二次鉱物による空隙の充填が限られ、原岩の構造が大きく改変されているが、牡蠣色閃長岩は空隙が二次鉱物によりほぼ充填され、かつ原岩の構造や組織が残存しており、両者の原岩が同一であるにもかかわらず、特徴が大きく異なる。

## 報告

山陰帯島根県東部に分布する花崗岩類に含まれる角閃石の結晶化温度圧力条件見積もり

中橋甲斐、齊藤 哲

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2025.0033>

The granitoids of the San'in Belt in the eastern part of Shimane Prefecture are magnetite-series granitoids. The amphibole in the studied samples can be divided into brown cores and green

rims. The cores contain scarce inclusions. There are decreases in the Al, Fe, and Na contents of the amphibole crystals from the core to rim, with compositions trending towards actinolite end-member compositions. A recently proposed machine-learning-based amphibole geothermobarometer yields pressures of 440-210 MPa and temperatures of 875-776° C for the cores, indicating their crystallization at temperatures above the water-saturated granite solidus.



## 謝辞

本年（2024年12月4日～2025年12月4日）、地質学雑誌投稿論文の査読を次の方々にお引き受け頂きました。ここにお名前を記し、厚く御礼申し上げます。

(地質学雑誌編集委員会)

秋山泰久、足立達朗、荒井章司、安藤寿男、池原研、池辺伸一郎、石川尚人、石崎泰男、石原与四郎、石村大輔、一田昌宏、伊藤 剛、伊藤久敏、井村 匠、植木岳雪、氏家恒太郎、梅田浩司、卜部厚志、江島圭祐、岡村行信、奥平敬元、片山郁夫、加藤文典、金子隆之、川口允孝、川村教一、菊地一輝、金 幸隆、楠橋 直、工藤 崇、熊原康博、公文富士夫、小林哲夫、小松原純子、小松原琢、齊藤 哲、先山 徹、佐々木寿、佐藤活志、佐藤大介、佐藤智之、里口保文、志村俊昭、下岡和也、鈴木毅彦、高澤栄一、高野修、高嶋礼詩、宝田晋治、田阪美樹、谷健一郎、田村亨、長 郁夫、堤 昭人、堤 之恭、壺井基裕、鳥井真之、長井雅史、中澤 努、長田充弘、中西利典、中楚貴元、仁木創太、兒子修司、西山賢一、延原尊美、橋本善孝、羽地俊樹、長谷川健、東野文子、古川邦之、星 博幸、細井淳、松井浩紀、松岡 篤、松崎賢史、松原典孝、萬年一剛、御前明洋、宮崎一博、宮田和周、三好雅也、本山 功、山崎新太郎、湯川弘一、湯口貴史、柚原雅樹（敬称略、50音順）



# 2026 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会 運営財政部会

一般社団法人日本地質学会運営規則（以下、運営規則）により 2026 年度の事業年度（会費年度）が始まる前までに納入下さいますようお願いいたします。2026 年 4 月～2027 年 3 月の会費額は下記の通りです。

会員資格	2026年4月～2027年3月分会費
正会員（シニア会員・一般会員）	12,000円（※1. 参照）
〃（学生会員） ※学生証の写しを提出した者に限る	5,000円
* 1：学生会員はバック制度による会費の納入方法を選択することができます。ただし、一括納入のみ。 2 年バック 8,000円（2026～2027年度分）／ 3 年バック 9,000円（2026～2028年度分）	
* 2：学生会員の会費は、過去年度に遡っての申請はお受けしません。	

## ①自動引き落としを登録されている方の引き落とし日は 12 月 23 日（火）です。

2025 年度分会費の引き落とし日は 12 月 23 日です。請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承ください。これより以前に不足額がある場合には加算され、余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります。通帳には金額とともに「チツカイヒ」あるいは「フリカエ」「S M B C」などと表示されますので、必ずご確認ください。

## ②自動引き落としをご利用ください。

新たに会費の自動引き落としをご希望の方は、10 月号ニュース誌巻末の振替依頼書をご提出ください。

一度手続きをしていただきますと、振込みのために金融機関へ出向く必要もありませんし、会費の未納防止にもなります。自動引き落としの申込は随時受付しています。今回（12 月以降に）お申込みいただいた方は、2026 年 6 月の督促請求時に引落させていただきます。

## ③お振り込みの方

12 月 22 日に請求書兼郵便振替用紙を発送いたします。折り返しご送金下さいますようお願いいたします。

## 1. 在会年数（会費納入年数）に応じた会費減額について

2023 年度から、正会員は当該年度 4 月 1 日時点で「65 歳以上」のシニア会員と「65 歳未満」の一般会員とに細分しています。シニア会員と一般会員の方のうち、2025 年度会費まで未納がなく在会 40 年あるいは 50 年（連続年数でなくても合計年数でも可）に達した場合は、2026 年度以降の会費からそれぞれ会費減額を行います。

・在会 40 年以降 11,000 円（1,000 円割引）

・在会 50 年以降 10,000 円（2,000 円割引）

本割引制度は、申請や手続きは不要です。何卒ご承知おきください。

## 2. 除籍対象年数の規則変更について。長期滞納者の会員はご注意下さい。

運営規則の一部改正（2022 年 6 月）により、除籍対象となる滞納年数が『滞納 4 年度目』から『滞納 3 年度目』に変更となりました。該当する方には個別にご案内することとなりますが、くれぐれもご注意下さい。

運営規則第 7 条（会費）第 4 項（4）

（4）会費支払いの督促を受けつつ、正当な理由なく、かつ、退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は、**滞納 3 年度目**をもって、理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする。

## 3. 災害に関連した会費の特別措置

災害救助法適用地域で被災された会員のご窮状をふまえ、「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち、希望する方」は当年度（もしくは次年度）の会費を免除いたします。希望される方は、学会事務局までお申し出ください。

（参考）内閣府 HP：災害救助法の適用状況

[https://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo\\_tekiyou.html](https://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo_tekiyou.html)

会費についてご不明な点がある場合やその他確認したいことがある場合は、日本地質学会事務局へお問い合わせ下さい。

(e-mail : main@geosociety.jp / FAX : 03-5823-1156 / TEL : 03-5823-1150)

## 学 会 記 事

### 2025年度第1回理事会議事録

日時：2025年9月6日（土）14:00-15:30

【WEB会議形式】

出席役員：出席理事42名，出席監事2名

・会長1名：山路 敦

・副会長2名：杉田律子・星 博幸

・常務理事1名：亀高正男

・副常務理事1名：内野隆之

・執行理事13名：岩井雅夫・保坂（内尾）優子・尾上哲治・加藤猛士・小宮 剛・坂口有人・辻森 樹・細矢卓志・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥

・理事24名：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・岡田 誠・笠間友博・加藤潔・香取拓馬・川村紀子・桑野太輔・小松原純子・齋藤 真・佐々木和彦・澤 燦道・沢田 輝・下岡和也・高野 修・田村嘉之・中澤 努・西 弘嗣・野田 篤・広瀬 亘・松田博貴・道林克禎・矢島道子・山本啓司

・監事2名：岩部良子・山本正司，事務局1名：澤木寿子

欠席役員：理事（8名）：大坪 誠・金丸龍夫・神谷奈々・清川昌一・沢田 健・菅沼悠介・高嶋礼詩・和田穰隆

・開催にあたり，今年度理事会議長として野田理事，副議長として田村理事が選出された。

・書記は広瀬理事，桑野理事が指名された。

・議長により理事会の成立要件の確認がなされた。本日の出席者が42名，成立要件は理事総数50名の過半数26名以上であることから，本理事会は成立することが確認された。議決は出席者の過半数22名以上である。

・開催に先立って山路会長からより，理事に対して参集への謝辞と活発な議論をお願いしたい旨挨拶があった。

### 報告事項

#### 1. 執行理事会報告（亀高常務理事）

2024年度第12回～2025年度第2回執行理事会議事録をもとに報告。審議された事項の概要が説明された。

・中学・高等学校理科教科書に関する説明および意見交換は，熊本大会3日目午後に説明会が開催されるので可能な限り出席をお願いしたい。

・IUGSジオヘリテージ事業公募について大学等へ働きかけを行う。

・ヒマラヤ野外実習プロジェクトより学会推薦の希望があり，緊急連絡体制や安全対策等について学会から問い合わせを行った。なおその後，推薦希望は取り下げられた。

・増刷予定のフィールドノートは1000円以内で販売できるよう価格を再検討している。

・地質学雑誌「報告」カテゴリーの廃止について検討している。「報告」は議論が含ま

れないと規定されているが実際には議論が含まれている事例が多い。ノートとの差別化も問題。現行の編集規則もわかりにくい。将来的に修正していく方向。

・学会員の休会制度の新設について議論を始めている。育休などに伴う学会活動休止にともない会費支払いを休止できるようにすること等が目的。総務委員会で原案をつくりダイバーシティ委員会等で議論の予定。

#### 2. 総務委員会（加藤猛士理事）

・会員動静：2025年8月末時点の会員動静と，前回（4月）理事会以降の逝去会員6名の報告があり（植村 武名誉会員，古沢 仁会員，井上 茂会員，有川隆一会員，大橋俊夫会員，後藤博弥会員），黙祷を捧げた。学生バックなど，会員数増加を目的に行っている各種対策の効果については現在分析中。

・その他：Teamsを利用したオンラインストレージ環境の利用開始に関して報告があった。各委員会，部会にはすでに報告済みだが，業務効率化のために活発な利用をお願いしたい。

#### 3. 広報委員会（坂口理事・内尾理事）

熊本大会概要，表彰，各種行事，ハイライト講演，市民講演会「熊本から始める最新恐竜学」，地質情報展 2025 くまもとー火の国、水の国！大地のふしぎー，第22回日本地質学会ジュニアセッション，学生のための地質系業界説明会等に関して，文部科学省記者会、熊本県政記者クラブへ投げ込み（プレスリリース）を行った。これらは関係各所への周知とともに地域のメディア等でとりあげられ，広く周知される見込み。

#### 4. 行事委員会（山口理事・高島理事の代理）

・2025熊本大会：

→講演申込519件（口頭243，ポスター276，※ジュニアセッション27件を含む）を採択した（山形大会は総計520件なのでほぼ同数）。事前参加登録者数約680名（山形大会657名より微増）。懇親会申込187名（うち学生52名）。

→巡検は9コース中8コースが催行予定。また，8月熊本県内での記録的豪雨の影響により，巡検ルートに一部変更が生じている。変更のあるコースについては，案内者から参加者予定者に向けて随時連絡を行った。案内書原稿は9コース中8コースが受理済み。

→学生優秀発表賞エントリー143件。審査員について，事務局より審査有資格者に再度依頼した。35名より可能との返答があった。審査員の配置に偏りがあり，口頭発表の地球史，岩石鉱物，九州の火山テクトニクス，沈み込み帯付加体などについてさらなる協力をお願いしたい。

・2026金沢大会：会期2026年9月13日（日）～15日（火），会場：金沢大学。地質情報展，市民講演会を福井市内で開催する。学術大会と開催地が異なることについて質問があり，地質情報展は，なるべくこれま

で実施したことのない地域で開催したいという産総研の方針があること，広報・普及の相乗効果を考慮して，市民講演会も情報展と同地域で開催する旨回答があった。

・2027つくば大会：会期2027年9月5日（日）～7日（火），会場：つくば国際会議場。会場選定の経緯について質問があり，警備等の関係により筑波大学が会場として急に使えなくなる可能性があること，大学までの交通の便がよいこと，国際会議場は機材等を別途準備する必要がないことなどを考慮して決定した旨回答があった。

・熊本大会LOC松田博貴委員長より挨拶。来週開催に向けて最終準備を行っている。豪雨による巡検コース変更が起きているが代替コースを設定し，無事開催できる予定である。かなりの暑さが予想されるので，十分な対策を各自お願いしたい。

#### 5. 地質学雑誌編集委員会（小宮理事）

2025年投稿編集33件（昨年比で微減）。2024年66件，2023年は57件であり，さらなる投稿をお願いしたい。年会各セッション世話人に，セッションの中から投稿を依頼する講演の推薦をお願いしているが，まだ十分に浸透していない。各賞受賞者による論文投稿も依頼しているが，なかなか投稿に繋がらない。これらについて関係者には声かけをお願いしたい。

#### 6. Island Arc編集委員会（辻森理事・亀高理事が代読）

32編が公表済みで，昨年よりハイペースである。ただし小規模雑誌では引用数の伸び悩みによりIFが激減する恐れがあるため，さらなる論文投稿，掲載論文の積極的な引用をお願いしたい。IFは2024年度は1.3，過去5年間で1.4，サイトスコアは2024年度は2.4。

#### 7. 地学教育委員会（岩井理事）

熊本大会Jrセッションは13校27件を予定。PDFによる事前審査を開始しており，理事に対して審査協力が呼び掛けられた。

#### 8. 地質技術者教育委員会（加藤猛士理事）

・熊本大会地質系業界説明会：対面企画に40団体が出席予定。今年は対面企画のみ実施する。学生が参加しやすいように午前中からの開催とした。学生の事前予約15名（9月6日現在）。学生の進路選択に寄与できることを期待している。関係者は引き続き周囲の学生への声掛けをお願いしたい。

・地球・資源分野JABEE委員会による第2回情報交換会：11月27日（木）開催予定。JABEE認定プログラムを取得していない機関にも周知し，認定申請に向けた支援も行う。交通費等を措置することで参加促進をすすめている。また，人材動向調査を関係学会に対して実施中（締切は9月26日）。

#### 9. ジオパーク支援委員会（天野理事）

「大地と人のものがたり」が6月10日に発行された。初版2500部，好評発売中。販売動向を見ながら増刷も検討している。会員向け特別販売キャンペーン（7月10日-8月25日）を実施した。申込数17件。Youtube「本チャン



ネル」に担当者が出演し宣伝をおこなった。閲覧数630回（9月6日現在）。文系分野への宣伝効果が期待される。

#### 10. 若手活動運営委員会（桑野理事）

・学生・若手の交流会：熊本大会会期前日9月13日（土）に、多目的交流施設で学生・若手の交流会を実施予定。自己紹介やフリートーク等を予定し、参加しやすいよう途中参加・退出も可能。

・若手巡検：10月18日（土）に長瀬・皆野地域でバスによる日帰り巡検を予定。講師は、早稲田大学永治方敬准教授、田口知樹准教授。35歳以下の学生および若手研究者を対象。学生参加費の半額を学会補助とする。

・地質系オンライン交流会：12月開催予定。学生や若手研究者が業界若手職員との交流を図る場として、座談会や懇親会などを企画している。引き続きご協力をお願いしたい。

#### 11. その他（岩井理事）

地震火山地質こどもサマースクールを8月に御嶽山（長野県）で開催した。詳しい報告は次回理事会で行う。来年度は気仙沼、その次は金沢で地震に関係した企画を検討中。2028年度以降の候補地は未定なので関係者にはご協力お願いしたい。

#### 審議事項

##### 1. 選挙管理委員会の設置について（亀高常務理事）

2026年度代議員および理事選挙・監事選挙の選挙管理委員会として、執行理事会よりメンバー5名の推薦があり、承認された（委員長：白井正明、委員：荒井健一、牛丸健太郎、栗原敏之、郡山鈴夏）。選挙概要やスケジュール等を確認し、前回同様、基本的にはWEB投票を行うが郵送投票も可能。郵送希望者は事務局へ要連絡。現代議員には引き続き立候補を期待するが、周囲への周知が呼びかけられた。またあわせて会長、副会長候補者の意向調査も行う。前回は投票率が低かった。今回はぜひ周知徹底し、投票率を高めた。

##### 2. 2026金沢大会巡検コース案（山口理事）

8コース（ポスト巡検5件、プレ巡検3件）を予定。うち2件は能登半島地震関係である。巡検コース案について、賛成多数で承認された。

##### 3. 「地質系若者のためのキャリアビジョン誌」の活用拡大策（案）（坂口理事）

2024年版は地質系企業131社を掲載し、2500冊を48大学に配布した。掲載社数は年々増加しており、企業ニーズが高まっている。また大学でのキャリア教育への貢献など本誌には幅広い波及効果が期待される。今後学部全体や高校生・保護者など配布先拡大を図るため、掲載料の値上げと一定数（50部）以上の配布についての有料化（1冊あたり100円）が提案された。賛成多数で承認された。

#### 監事コメント

（山本監事）今年は選挙が予定されている。選挙システムがやや複雑であるが、前回よりも高い投票率となるよう留意し、選挙を進めていただきたい。

（岩部監事）今年は選挙の年であり、より多くの立候補をお願いしたい。投票率増加にむけて広報等もしっかりお願いしたい。キャリアビジョン誌は、地質系学生が進路を前向きに考える際に大変役に立つ。地質系の教育の先に専門職があることを知ってもらえるよう、大学だけでなく高校生も含め配布を行うことが重要である。今後も積極的に配布拡大を検討してほしい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長および出席監事、理事は次に記名・捺印する。

2025年10月16日

一般社団法人日本地質学会

理事：議長 野田 篤

理事：副議長 田村嘉之

代表理事：会長 山路 敦

理事：副会長 杉田律子

理事：副会長 星 博幸

監事：山本正司

監事：岩部良子

理事：出席理事名（省略）

## 2025年度第3回執行理事会議事録

日程：2025年9月6日（土）10:00-12:00

#### 【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、尾上哲治、加藤猛士、小宮剛、坂口有人、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

欠席：大坪 誠、高嶋礼詩

\*定足数（過半数：10）に対し、執行理事00名の出席

\*前回25-02議事録案は、本執行理事会にて承認された。

#### 報告事項（理事会報告の確認）

##### 1. 全体的報告

・山田科学振興財団2025年度研究援助選考結果について、地質学会から1名の会員を推薦したが、不採択となった。

##### 2. 運営財政部会（加藤・細矢）

###### 1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・発注者・若手技術者が知っておきたい『地質調査実施要領』解説講習会（主催：経済調査会、11/12大阪、11/18東京開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・観察会：宅地開発で隠れた衣笠断層帯を歩く（主催：三浦半島活断層調査会、12/6開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・深田地質研究所より役員変更の連絡があった。（新理事長：松田博貴氏）

・共催、協賛、後援等の定義について、2020年12月理事会で定めた分類を踏まえて再確認し、それらの違いを外部にも分かるようにHP等で公開する予定。

#### <会員>

1. 今月の入会者：正会員3名（一般1、学生2）  
正会員一般：石橋真那美

正会員学生（2年バック（1名）、3年バック（1名））：加藤三咲、金丸花凜

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：なし

4. 2025年8月末会員数

賛助：40、名誉：33、ジュニア会員：7、正会員：3141〔一般1974、シニア886、学生会員281〕 合計 3221（昨年比-4）

5. 前回（4/19）理事会以降の逝去者氏名（6名）

名誉会員（1）植村 武（逝去日：2025年5月14日）

正会員シニア（5）古沢 仁（逝去日：2023年9月2日）、井上 茂（逝去日：2024年8月7日）、有川隆一（逝去日：2025年4月14日）、大橋俊夫（逝去日：2025年4月26日）、後藤博弥（逝去日：2025年5月15日）

#### <会計>

特になし

#### <その他>

・休会制度の新設について（→審議事項へ）

##### 3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

###### 1) 広報委員会（坂口・内尾）

・ホームページリニューアル進捗状況：遅れているが、今年度内の完成に向け作業を急いでいる。

・熊本大会プレスリリースを行う

##### 4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

###### 1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2025熊本大会：

→講演申込519件（口頭243、ポスター276、※ジュニアセッション27件を含む）（昨年の山形大会は520）。懇親会申込187（うち学生52）。

→学生優秀発表賞のエントリーは143件。現状、審査員数が2名以下の発表も幾つかあるので、積極的な審査委員登録をお願いしたい。

→巡検は9コース中8コースが催行予定（巡検案内書も8コースが受理済み）。8月に熊本県内で発生した豪雨により、巡検ルートに一部変更が生じ、当該コースの参加者予定者にはその旨を案内者から連絡済。また、すべての参加予定者に、安全のしおりを事前に送付した。

・2026金沢大会：会期は2026年9月13日（日）～15日（火）、会場：金沢大学。地質情報展及び市民講演会は、未実施地域で開催し

たいという産総研の方針から福井市内で開催予定。

・2027つくば大会：会期は2027年9月5日（日）～7日（火）。会場：つくば国際会議場。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）  
特になし

3) 国際交流委員会（辻森）  
特になし

4) 地質標準化委員会（内野）  
特になし

5) 学術戦略WG（尾上）  
特になし

6) ショートコースWG（山口）  
特になし

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）  
・編集状況報告（2025年9月4日現在）  
2025年投稿論文：33（昨年比-6）〔内訳〕総説1（和文1）、論説18（和文16、英文2）、報告2（和文2）、レター2（和文2）、ノート2（和文2）、フォト1（和文1）、巡検案内書7  
査読中24、受理済み6、入稿・校正中8、公開22

・今後、次期編集委員長の選定は執行理事会内で行うことを検討していく。

・将来的にカテゴリや投稿規定の見直しも必要との意見あり。

2) Island Arc編集委員会（辻森）  
・今年度の公表数が現時点で32編と昨年度より多いペース。

3) 企画出版委員会（小宮）  
・「大地と人の物語－地質学でよみとく日本の伝承」が6月に刊行済。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）  
・特になし

2) 地質技術者教育委員会（加藤）  
・地質系業界説明会には40の団体が出席、現状で16名の学生が事前参加登録。まだ少ないので、学生への宣伝をお願いしたい。

・地球・資源分野JABEE委員会より情報交換会（11/27開催）開催案内

3) 生涯教育委員会（矢部）  
特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）  
・今年度の御嶽山は無事終了した。長野県のNHKでも報道された。

5) 地質の日（矢部）  
特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（亀高）  
特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）  
特になし

3) 表彰制度検討WG（亀高）  
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）  
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）  
・「地球わくわく未来ガイド」への広告掲載案内があり、例年同様掲載の予定。（協賛団体掲載料無料）。

3) 支部長連絡会議（杉田）  
・シニア会員活躍の推進、学術大会の運営費削減及び計画への行事委員会の関与、Teamsストレージの活用、役員選挙などについて、熊本大会で情報共有・意見交換する。

4) 地質災害委員会（松田）  
特になし

5) 名誉会員推薦委員会（星）  
特になし

6) 各賞選考委員会（亀高）  
・次期選考委員長がまだ決定していないので、第1回理事会後に関係者で集まり協議する。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）  
特になし

8) 法務委員会（亀高）  
特になし

9) 若手活動運営委員会（星）  
特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）  
特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）  
特になし

審議事項

1. 休会制度の新設について（総務委員会）  
産休・育休などで一時期学会活動を休止する会員のために、休会制度（休会中の会費は免除）の導入を検討していく。休会期間の単位、複数年バック会費の学生会員の扱い、運営規則の変更、新会員システムへの対応など、今後詳細を詰めてゆく。制度設計には事務局の負担を極力増やさないように考慮する。

2. 理事会審議事項、資料の確認

監事コメント

（山本監事）休会制度は、退会の防止につながるので、ぜひ前向きに進めて欲しい。

（岩部監事）出産・育児を機に退会する女性は一定数存在するので、休会制度設立の検討は進めてもらいたい。費用の高騰が続いている学術大会について、今後学会本部も積極的に運営に関わって行って欲しい。

以上

2025年10月15日

一般社団法人日本地質学会  
会長（代表理事）山路 敦  
署名人 執行理事 亀高正男

2025年度第4回執行理事会議事録

日程：2025年10月15日（水）18:30-20:00  
【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子  
事務局 澤木

欠席：岩井雅夫

＊定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

＊前回25-03議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

1. 全体的報告

・9/21付で2026年度代議員選挙および役員選挙の告示を行った。10/22～11/19に代議員立候補届けおよび正・副会長への立候補意思表示の受付を行う。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会  
＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞  
・第63回アイソトープ・放射線研究発表会（26/7/8－7/10）への参画依頼があり、後援で承諾した。

・蒲郡市生命の海科学館「第16回 地球惑星フォトコンテスト 入賞作品展（11/8－12/4）」共催依頼があり承諾した。

・令和7年度石油技術協会秋季講演会（11/6）への協賛依頼があり、承諾した。なお、協力内容は『後援』に相当するが、申請内容の通り協賛として承諾した。

・第67回藤原賞受賞候補者推薦依頼があった（学会締切12/1）

・山田科学振興財団より2026年度研究援助候補推薦依頼があった（学会締切2026/2/6）。地質学会推薦枠3件。

・大日本ダイヤコンサルタント（株）より役員変更のご連絡があった。（代表取締役社長：原田政彦氏（留任）、副社長：齊藤哲郎氏（昇任）他）

＜会員＞

1. 今月の入会者：賛助会員1社、ジュニア会員1名、正会員4名（一般2、学生2）

賛助会員：東海窯業原料株式会社  
ジュニア会員：畠田寛人

正会員一般：辻林祐祐、渡辺憲彦※紹介者なし、

正会員学生（単年度1名、3年バック1名）白井完多、板橋幸助

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：3名

名誉会員（1）石崎国熙（逝去日：2025年10月4日）



正会員シニア (2) 藤吉 瞭 (逝去日: 2025年5月12日), 原田正史 ( 〃 : 2025年9月22日)

4. 2025年9月末会員数  
賛助: 40, 名誉: 33, ジュニア会員: 7, 正会員: 3150 [内訳 一般1974, シニア885, 学生会員291] 合計 3230 (昨年比-2)

<会計>  
特になし

<その他>  
・フィールドノート3000部を増刷し, 販売を再開した (定価1200円 (会員頒価900円)). 別途料金で名入れも可能. 2026年3月末まで再販記念キャンペーンとして会員・非会員ともに800円で販売する.

3. 広報部会 (坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会 (坂口・内尾)  
・ホームページリニューアルについて, 今年度末の完成に向け業者と打合せを進めている.  
・Xのフォロワー数は3800名を超えた.

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)  
・2025熊本大会: 講演数は519件 (山形大会とほぼ同数). 学生優秀発表賞は42件が決定した. 巡検は8コース中7コースが実施された.  
・今回に限ったことではないが, 巡検案内書の公開が大会当日までに間に合わないケースが少なくないことは問題であり, 改善に向けての具体策を検討する必要がある.

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)  
特になし

3) 国際交流委員会 (辻森)  
特になし

4) 地質標準化委員会 (内野)  
特になし

5) 学術戦略WG (尾上)  
特になし

6) ショートコースWG (山口)  
特になし

5. 編集出版部会 (小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)  
・編集状況報告 (2025年10月15日現在)  
2025年投稿論文: 37 (昨年比-10) [内訳] 総説1 (和文1), 論説18 (和文16, 英文2), 報告4 (和文3, 英文1), レター2 (和文2), ノート4 (和文4), フォト1 (和文1), 巡検案内書7  
査読中24, 受理済み6, 入稿・校正中8, 公開22  
・新規特集号の申し込みがあった. タイトル「三浦半島北東部の上総層群下部 (フェニおよびオルドバイ正磁極亜帯層準) の層序と古生物」(世話人: 間嶋隆一 (放送大), 野崎 篤 (平塚市博), 中谷晃崇 (産総研), 瀬戸大暉 (山形県博)) 担当編集委員等を割り当て, まもなく投稿開始予定.

2. Island Arc編集委員会 (辻森)  
編集事務局からはAssociate Editor増員の要望が挙がっている.

3. 企画出版委員会 (小宮)  
・(株)宝島社より『やばすぎ古生物図鑑』(日本地質学会監修, 2019年発行, 173ページ)の一部を利用した (合本), 新たな出版物『大絶滅! きえた いきもの図鑑』の作成が予定されている. 監修者に対して校正依頼があり, 現在校正作業中.

6. 社会貢献部会 (矢部・岩井・坂口)

1) 地学教育委員会 (岩井)  
・熊本大会ジュニアセッション優秀賞1件, 奨励賞4件が決定した.

2) 地質技術者教育委員会 (加藤)  
・熊本大会の地質系業界説明会では, 40の企業・団体が参加し, 98名の学生の参加があった (各企業ブースへの延べ訪問数は255).  
・地質系若者のためのキャリアビジョン誌2025の原稿募集, 広報を開始した (12/19締切)

3) 生涯教育委員会 (矢部)  
特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール (岩井)  
特になし

5) 地質の日 (矢部)  
特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会 (亀高)  
特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)  
特になし

3) 表彰制度検討WG (亀高)  
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)  
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)  
特になし

3) 支部長連絡会議 (杉田)  
・9/15に支部長連絡会議が開催された. 大会開催の折には, 可能な限り経費削減に努めて欲しい旨を伝えた. 会議では代議員の定数見直しの要望があった. また, シニア会員に対する取り組みについて, 様々な意見や要望があった (例: 人材バンク, 巡検での学生への指導, 現在消失した露頭情報の提供など).

4) 地質災害委員会 (松田)  
特になし

5) 名誉会員推薦委員会 (星)  
・2026年度の階層別委員及び理事会代表委員について, 来月の執行理事会で報告し, 12月理事会へ上程する.

6) 各賞選考委員会 (亀高)  
・9/6理事会後の打合せで, 本年度の委員長を道林克禎理事に決定した.  
・2026年度各賞候補者の募集を開始した. 応募締切は12月1日 (月) 必着.

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山口)

特になし

8) 法務委員会 (亀高)  
特になし

9) 若手活動運営委員会 (星)  
若手巡検 in 長瀬・皆野地域 (10/18実施) は定員26名に対し, 24名参加申込があった.

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)  
特になし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)  
特になし

## 審議事項

特になし

## 監事コメント

(山本監事) 巡検は大会の主要イベントの一つであり, 案内書の公開が大会当日に間に合っていないことはよくない. 巡検案内者に会長から委嘱状を出すことで, 当人の責任感が増し, 提出遅延防止に多少つながるかもしれない.  
(岩部監事) 巡検案内書は大会までに間に合わせてほしい. 案内者にそのことをしっかり理解してもらえる様, 繰り返し働きかけてもらいたい. 巡検時には, ヘルメット着用を徹底するよう, 学会からも案内者にしっかり説明してもらおうが良い.

以上  
2025年11月19日  
一般社団法人日本地質学会  
会長 (代表理事) 山路 敦  
署名人 執行理事 亀高正男

# 入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。  
入会には正会員1名の紹介が必要です。近くに紹介者となるべき会員がない場合は旨お申し出ください。また、初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費の入金を確認した上でを行い、News誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書郵送先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会  
会費送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会  
ゆうちょ銀行 ○ー九(ゼロイチキョク)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会 シヤニホシツガツカイ  
会費年額: 正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円 ※1  
正会員(学生会員) 5,000円/年、2年パック会費額: 8000円、3年パック会費額: 9000円) ※2  
ジュニア会員 0円(年会費不要) ※3

※1: シニア会員は、入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)。  
※2: 学生会員は、次の2点を守って手続して下さい。①学生証の写しを提出すること。②バック制会費を希望の場合は一括納入すること。  
※3: ジュニア会員は、正会員の権利は有しません。学術大会での発表はジュニアセッションに限定します。

* 会員番号	* 会員種別 <input type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> シニア <input type="checkbox"/> 学生会員 <input type="checkbox"/> ジュニア会員
--------	--

## 一般社団法人日本地質学会入会申込書

Application form for the Geological Society of Japan

本枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな)	Name in Japanese	ローマ字表記	family name	first name
____年Year	____月Mo	____日Day	生born on	Sex: <input type="checkbox"/> 男Male <input type="checkbox"/> 女Female Country: _____
学歴 Academic career:				
____学校 High school _____年卒業 Year completed				
____大学 University _____学部 Faculty _____年____月卒業(見込み) Year completed				
修士 Master: _____大学 Univ. _____研究科 Fac. _____年____月修了(見込み) Year completed				
博士 Master: _____大学 Univ. _____研究科 Fac. _____年____月修了(見込み) Year completed				
※学生証の写し忘れずに添えて下さい。				
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code _____) _____				

電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code _____) _____	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____
e-mail Address: _____@_____	
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用。その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません。ご注意ください。 ※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。	
連絡先 Correspondence: <input type="checkbox"/> 自宅 Home <input type="checkbox"/> 所属機関 Office	

* 受付(	年	月	日)	* 承認(	年	月	日)	* 入金(	年	月	日)	振替・現金・銀行・他	* 送本(	巻	号)
-------	---	---	----	-------	---	---	----	-------	---	---	----	------------	-------	---	----

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。

## 『学生会員』入会希望者

学生証の写しをここへ貼付

会員情報について: 在会者に限定し、Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には ☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承認いただいたものとします)。

☐ 最終学歴 ☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「株式会社〇〇」までを必須項目として掲載)  
☐ 所属先住所 ☐ 所属先電話・FAX番号 ☐ 自宅住所 ☐ 自宅電話・FAX番号 ☐ e-mail Address

紹介者名(正会員) \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

Recommended by (name of member) \_\_\_\_\_ Signature \_\_\_\_\_

(学生のかた)  
希望する会費額を選択して下さい。バック制会費選択者は、該当するバック制会費額を一括納入して下さい。

☐ 5,000円(初年度のみ) / ☐ 2年バック: 8,000円(初年度・次年度) / ☐ 3年バック: 9,000円(初年度・次年度・次次年度)  
☐ 学生会員として入会希望です。学生証の写しを入会申込書に添えて提出します。

### 専門部会の選択(任意)

現在、下記の14の専門部会が活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 地域地質 2. 層序 3. 堆積地質 4. 海洋地質 5. 構造地質 6. 岩石 7. 火山 8. 応用地質  
9. 環境地質 10. 情報地質 11. 古生物 12. 第四紀地質 13. 環境変動史 14. 鉱物資源

興味専門分野の選択(任意) あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 層位 2. 堆積・堆積岩 3. 古生物 4. 構造地質 5. 火山・火山岩 6. 深成岩 7. 変成岩  
8. 鉱床地質(金属・非金属) 9. 鉱床 10. 鉱物 11. 燃料地質 12. 地熱 13. 第四紀 14. 環境地質  
15. 都市地質 16. 土木地質 17. 土質工学 18. 水文地質 19. 探査地質 20. 土木工学 21. 情報地質  
22. 地震地質 23. 海洋地質 24. 地球物理 25. 地球化学 26. 地質年代学 27. 地理 28. 地学教育  
29. 考古学 30. その他 40. 地球惑星



# 一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日 日本地質学会総会制定

2009 年 12 月 5 日 一般社団法人日本地質学会制定 \*

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

## 日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

\*2009 年 12 月 5 日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。





応募締切

2/1(日)

2026

第17回

# 惑星地球 フォトコンテスト

最優秀賞 5万円

その他多数賞

優秀賞 2点,  
地質学会賞(学会員)  
入選 数点

スマホ賞  
ジオ鉄賞  
大学生/大学院生賞  
小/中/高校生賞

## 大地が残す 風景・自然美

地層・岩石・化石, ジオパーク, ジオ鉄

申し込み方法 [photo.geosociety.jp](http://photo.geosociety.jp)

WEB 応募, 郵送応募いずれも可  
郵送は同日必着



お問い合わせ

日本地質学会事務局  
Tel 03-5823-1150  
mail: [photo@geosociety.jp](mailto:photo@geosociety.jp)

主催: 一般社団法人日本地質学会

協賛: NPO 法人 日本ジオパークネットワーク

深田研ジオ鉄普及委員会

株式会社 ウインディーネットワーク

Permian red shale, Cribas Formation, Timor-Leste  
Photo by S. Kiyokawa